

豊橋市埋蔵文化財調査報告書第93集

瓜 郷

(Ⅱ)

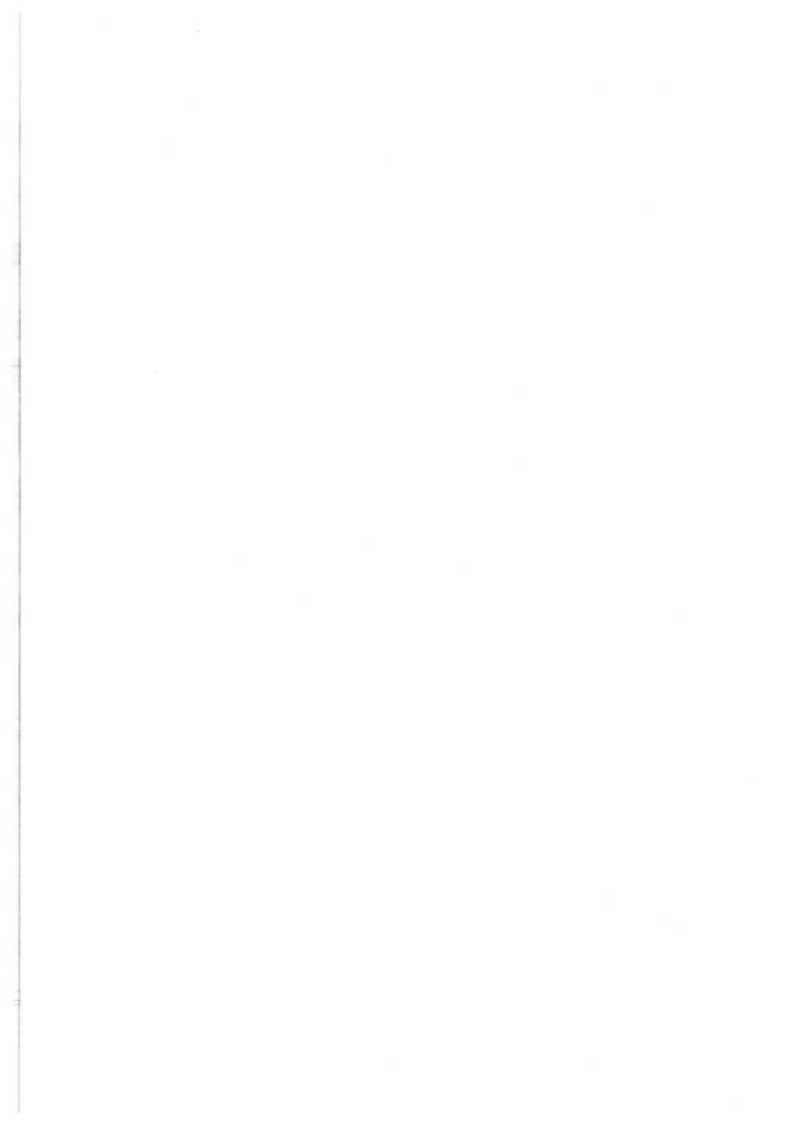
2007年3月

豊橋市教育委員会

う り
瓜

こ う
郷

(II)





俯瞰



第3トレンチSK-9出土土器(3-10)側面

卷頭図版第2 丹彩土器(2)



1、1-43



2、1-114



3、1-163



4、1-191



5、1-235



6、1-295



1、1-354



2、1-485



3、1-497



4、1-524



5、1-534



6、1-560



1、1-609



2、1-556



3、1-607



4、1-608



1、SK1-10



2、SK1-51



3、SK1-54



4、SK1-90



5、SK1-131



6、1T57m付近包含層

卷頭図版第6 丹彩土器 (6)



1、3-8



2、3-27



3、3-94



4、3-137



5、3-167



6、3-217



1、3-31



2、3-204



3、3-211



4、3-213



1、3-220



2、3-222



3、3-223



4、3G-3



5、3G-25



1、槍形木製品



2、槍先



3、石突



4、木製高杯杯面



5、高杯側面

卷頭図版第10 木製品 (2)



1、豎杵



2、杵頭 (1)



3、杵柄



4、杵頭 (2)



1、小形丸木舟の上面



2、小形丸木舟の側面（1）



3、小形丸木舟の側面（2）



4、小形丸木舟の底面

卷頭図版第12 木製品（4）



1、柄状木製品



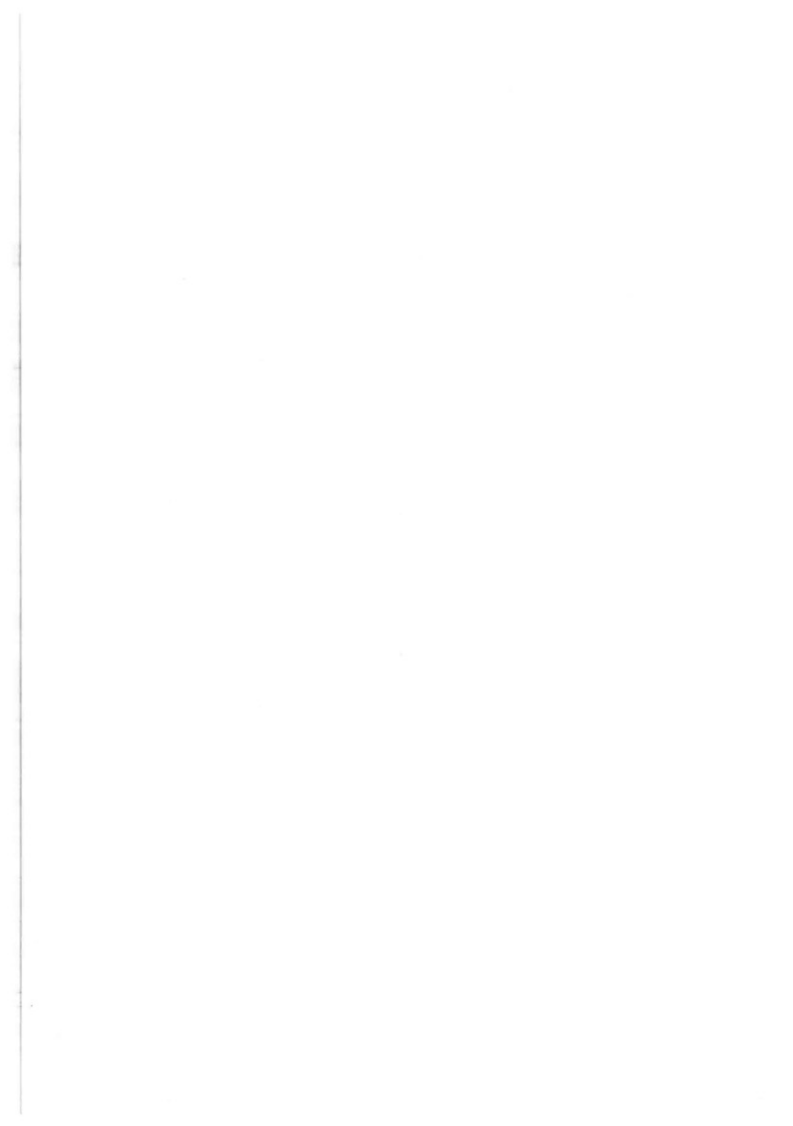
2、未完成品



3、未完成品

例 言

1. 本書は豊橋市瓜郷町字寄道と字前川において、下水道の設置工事に伴って1982年度に実施した発掘調査の調査報告である。瓜郷遺跡における第6回目の発掘調査にあたり、調査実施後20余年を隔したがようやく刊行にこぎつけることができた。
2. 発掘調査は豊橋市教育委員会から委託を受けた豊橋遺跡調査会が1982年7月21日から1983年3月22日の間に、3次に分けて実施したものである。
調査担当者は芳賀陽（日本考古学協会会員）である。調査員は第1次調査が鈴木途修（愛知大学考古学研究会）・石川明宏（奈良大学学生）、第2次・第3次が小畑頼孝（豊橋市美術博物館嘱託）である。調査補助員と作業員については第2章に記載した。
3. 石材の同定は豊橋市自然史博物館の家田健吾による。
木材の樹種同定は植田弥生氏（パレオ・ラボ）と岩本佳子氏（豊橋市美術博物館嘱託）による。
第1トレンチSK-93出土の獣骨の鑑定は西本豊弘氏（歴史民俗博物館）に依頼し、報告を付載とした。
4. 本書の作成にあたり、遺物実測は豊橋市美術博物館作業員の井上佳子・河合厚子・樋口緑子・河村道子・大川絵里・新本隆子氏と芳賀陽がおこなった。石器のうち剥片の実測・観察は小畑頼孝氏が行なった。
トレースは豊橋市美術博物館作業員の小出豊・原田まり子氏が行なった。
5. 本書の題字は第1回～第5回調査の報告書『瓜郷』（豊橋市教育委員会 1963）から借用した。
筆者は瓜郷遺跡の顕彰に努められた丸地幸之助（古城）氏である。
6. 本書の執筆分担は下記のとおりである。
芳賀 陽 第1章～第8章、
西本豊弘 付載
7. 第4章第1節2、包含層出土の土器の項における分類に関しては、『瓜郷』『第6章 第6節弥生式土器』（久永春男氏）の記述を借用させていただき、新出を補った。
8. 遺跡番号は『愛知県遺跡地図Ⅲ 東三河地区』『愛知県遺跡地図Ⅱ 西三河地区』愛知県教育委員会1996によった。
9. 本書に使用した写真のうち発掘現場のものは芳賀陽と小畑頼孝氏が撮影したものである。遺物の写真は伊藤恵・住吉正浩氏の協力をえて、芳賀陽が撮影したものである。
10. 発掘調査および報告書作成に関する記録類、出土遺物は豊橋市教育委員会において管理・保管している。



本文目次

第1章 位置と環境	1
第1節 位 置	1
第2節 地理的環境	3
第3節 歴史的環境	3
第2章 調査の経緯	9
第1節 調査の歴史	9
第2節 今回の調査	10
第3章 層序と遺構	16
第1節 第1トレンチの層序と遺構	16
第2節 第2トレンチの層序と遺構	23
第3節 第3トレンチの層序と遺構	27
第4節 第1グリッドの層序と遺構	30
第5節 第2グリッドの層序と遺構	31
第6節 第3グリッドの層序と遺構	32
第7節 第4グリッドの層序と遺構	34
第8節 第5グリッドの層序と遺構	35
第4章 土 器	53
第1節 第1トレンチの土器	53
第2節 第2トレンチの土器	66
第3節 第3トレンチの土器	68
第4節 第1グリッドの土器	72
第5節 第2グリッドの土器	73
第6節 第3グリッドの土器	74
第7節 第4グリッドの土器	75

第8節 表採土器	76
第5章 土製品	192
第1節 土 錘	192
第6章 木製品・木材	195
第1節 木製品	195
第2節 木材等	199
第7章 石製品・骨角製品	201
第1節 石製品	201
第2節 骨角製品	204
第8章 結 語	209
第1節 瓜郷遺跡の土器	209
第2節 遺跡の立地と範囲	214
第3節 終わりに	217
付載 瓜郷遺跡出土のイノシシ頭蓋骨	巻末

挿 図 目 次

挿図第 1	瓜郷遺跡の位置	1
挿図第 2	瓜郷遺跡付近の地形	2
挿図第 3	瓜郷遺跡付近の遺跡	4
挿図第 4	南屋敷遺跡・菟足神社遺跡出土 遺物実測図	7
挿図第 5	大蚊里貝塚の発掘参加者	9
挿図第 6	トレンチとグリッドの位置	12
挿図第 7	第 3 トレンチ東半部における土器の出土状態	29
挿図第 8	第 3 グリッドの溝 5 における土器の出土状態	33
挿図第 9	第 1 トレンチ平面図・断面図 (1)	36
挿図第 10	第 1 トレンチ平面図・断面図 (2)	37
挿図第 11	第 1 トレンチ平面図・断面図 (3)	38
挿図第 12	第 1 トレンチ平面図・断面図 (4)	39
挿図第 13	第 1 トレンチ平面図・断面図 (5)	40
挿図第 14	第 1 トレンチ平面図・断面図 (6)	41
挿図第 15	第 1 トレンチ平面図・断面図 (7)	42
挿図第 16	第 1 トレンチ平面図・断面図 (8)	43
挿図第 17	第 1 トレンチ平面図・断面図 (9)	44
挿図第 18	第 2 トレンチ (1 次) 平面図・断面図	45
挿図第 19	第 2 トレンチ (2 次) 平面図・断面図	46
挿図第 20	第 3 トレンチ平面図・断面図 (1)	47
挿図第 21	第 3 トレンチ平面図・断面図 (2)	48
挿図第 22	第 1 グリッド平面図・断面図	49
挿図第 23	第 2 グリッド平面図・断面図	50
挿図第 24	第 3 グリッド平面図・断面図	51
挿図第 25	第 4 グリッド・第 5 グリッド平面図・断面図	52
挿図第 26	第 1 トレンチ遺構出土 土器実測図 (1)	77
挿図第 27	第 1 トレンチ遺構出土 土器実測図 (2)	78
挿図第 28	第 1 トレンチ遺構出土 土器実測図 (3)	79
挿図第 29	第 1 トレンチ遺構出土 土器実測図 (4)	80
挿図第 30	第 1 トレンチ遺構出土 土器実測図 (5)	81
挿図第 31	第 1 トレンチ遺構出土 土器実測図 (6)	82
挿図第 32	第 1 トレンチ遺構出土 土器実測図 (7)	83
挿図第 33	第 1 トレンチ遺構出土 土器実測図 (8)	84

挿図第34	第1トレンチ遺構出土	土器実測図(9)	85
挿図第35	第1トレンチ遺構出土	土器実測図(10)	86
挿図第36	第1トレンチ遺構出土	土器実測図(11)	87
挿図第37	第1トレンチ遺構出土	土器実測図(12)	88
挿図第38	第1トレンチ遺構出土	土器実測図(13)	89
挿図第39	第1トレンチ遺構出土	土器実測図(14)	90
挿図第40	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(1)	91
挿図第41	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(2)	92
挿図第42	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(3)	93
挿図第43	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(4)	94
挿図第44	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(5)	95
挿図第45	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(6)	96
挿図第46	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(7)	97
挿図第47	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(8)	98
挿図第48	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(9)	99
挿図第49	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(10)	100
挿図第50	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(11)	101
挿図第51	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(12)	102
挿図第52	第1トレンチ包含層出土	土器実測図(13)	103
挿図第53	第2トレンチ出土	土器実測図(1)	104
挿図第54	第2トレンチ出土	土器実測図(2)	105
挿図第55	第2トレンチ出土	土器実測図(3)	106
挿図第56	第2トレンチ出土	土器実測図(4)	107
挿図第57	第2トレンチ出土	土器実測図(5)	108
挿図第58	第3トレンチ遺構出土	土器実測図(1)	109
挿図第59	第3トレンチ遺構出土	土器実測図(2)	110
挿図第60	第3トレンチ遺構出土	土器実測図(3)	111
	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(1)	
挿図第61	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(2)	112
挿図第62	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(3)	113
挿図第63	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(4)	114
挿図第64	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(5)	115
挿図第65	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(6)	116
挿図第66	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(7)	117
挿図第67	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(8)	118
挿図第68	第3トレンチ包含層出土	土器実測図(9)	119

挿図第69	第3トレンチ包含層出土 土器実測図 (10)	120
挿図第70	第3トレンチ包含層出土 土器実測図 (11)	121
挿図第71	第3トレンチ包含層出土 土器実測図 (12)	122
挿図第72	第3トレンチ包含層出土 土器実測図 (13)	123
挿図第73	第3トレンチ包含層出土 土器実測図 (14)	124
挿図第74	第3トレンチ包含層出土 土器実測図 (15)	125
挿図第75	第3トレンチ包含層出土 土器実測図 (16)	126
挿図第76	第1グリッド出土 土器実測図	127
挿図第77	第2グリッド出土 土器実測図	128
挿図第78	第3グリッド遺構出土 土器実測図 (1)	129
挿図第79	第3グリッド遺構出土 土器実測図 (2)	130
挿図第80	第3グリッド遺構出土 土器実測図 (3)	131
挿図第81	第3グリッド遺構出土 土器実測図 (4)	132
挿図第82	第3グリッド遺構出土 土器実測図 (5)	133
挿図第83	第3グリッド遺構出土 土器実測図 (6)	134
挿図第84	第3グリッド包含層出土 土器実測図 (1)	135
挿図第85	第3グリッド包含層出土 土器実測図 (2)	136
挿図第86	第4グリッド出土 土器実測図	137
挿図第87	表採土器実測図	138
挿図第88	土製品実測図	193
挿図第89	木製品実測図 (1)	196
挿図第90	木製品実測図 (2)	197
挿図第91	石製品実測図 (1)	205
挿図第92	石製品実測図 (2)	206
挿図第93	石製品実測図 (3)	207
挿図第94	石製品実測図 (4)、骨角製品実測図	208
挿図第95	瓜郷上層第3様式土器 (1)	212
挿図第96	瓜郷上層第3様式土器 (2)	213
挿図第97	調査地点と遺跡の範囲	215
付挿図第1	第1トレンチSK-93出土の猪頭骨	巻末

表 目 次

表第 1	瓜郷遺跡周辺の遺跡	5
表第 2	第 1 トレンチ遺構一覧	19
表第 3	第 2 トレンチ (1 次) 遺構一覧	24
表第 4	第 2 トレンチ (2 次) 遺構一覧	25
表第 5	第 3 トレンチ遺構一覧	28
表第 6	第 1 グリッド遺構一覧	31
表第 7	第 2 グリッド遺構一覧	32
表第 8	第 3 グリッド遺構一覧	34
表第 9	第 1 トレンチ出土 土器観察表	139
表第 10	第 2 トレンチ出土 土器観察表	164
表第 11	第 3 トレンチ出土 土器観察表	168
表第 12	第 1 グリッド出土 土器観察表	181
表第 13	第 2 グリッド出土 土器観察表	183
表第 14	第 3 グリッド出土 土器観察表	184
表第 15	第 4 グリッド出土 土器観察表	190
表第 16	表採土器 観察表	191
表第 17	土錘観察表	192
表第 18	木製品観察表	198
表第 19	木材等観察表	200
表第 20	石製品観察表	203
付表第 1	上顎歯と頭蓋骨の主要計測値	巻末

図版目次

巻頭図版

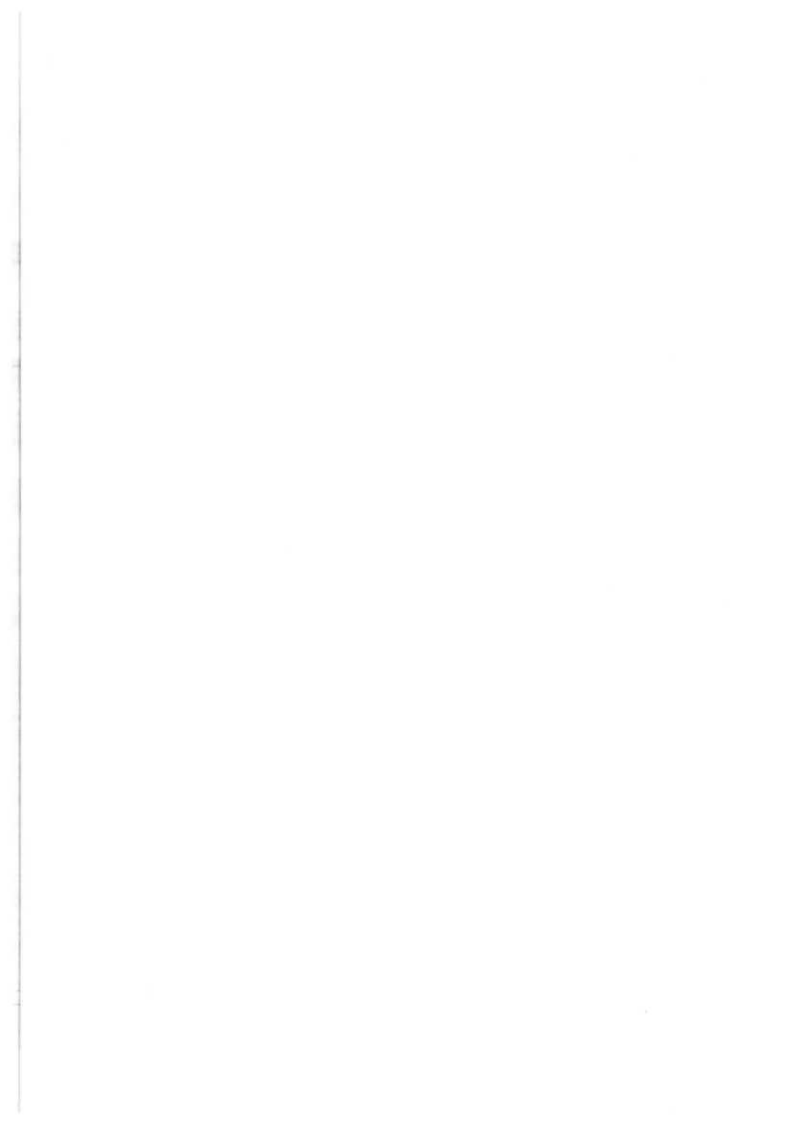
- 巻頭図版第1 丹彩土器(1) SK3-9出土 壺(3-10)
- 巻頭図版第2 丹彩土器(2) 1,1-43 2,1-114 3,1-163 4,1-191 5,1-235 6,1-295
- 巻頭図版第3 丹彩土器(3) 1,1-354 2,1-485 3,1-497 4,1-524 5,1-534 6,1-560
- 巻頭図版第4 丹彩土器(4) 1,1-609 2,1-556 3,1-607 4,1-608
- 巻頭図版第5 丹彩土器(5) 1,SK1-10出土 2,SK1-51出土 3,SK1-54出土 4,SK1-90出土
5,SK1-131出土 6,1T57m付近出土
- 巻頭図版第6 丹彩土器(6) 1,3-8 2,3-27 3,3-94 4,3-137 5,3-167 6,3-217
- 巻頭図版第7 丹彩土器(7) 1,3-31 2,3-204 3,3-211 4,3-213
- 巻頭図版第8 丹彩土器(8) 1,3-220 2,3-222 3,3-223 4,3G-3 5,3G-25
- 巻頭図版第9 木製品(1) 1~3, 檜形木製品 4・5, 高杯
- 巻頭図版第10 木製品(2) 1~4, 竪杵
- 巻頭図版第11 木製品(3) 1~4, 小形丸木舟
- 巻頭図版第12 木製品(4) 1, 柄状木製品 2・3, 未完成品

写真図版

- 図版第1 調査地点の現状(1) 1, 瓜郷遺跡公園 2, 江川と鹿管橋
- 図版第2 調査地点の現状(2) 1, 第1トレンチ設置地点 2, 第2トレンチと第1グリッド設置地点
- 図版第3 調査地点の現状(3) 1, 第2グリッド設置地点 2, 第3トレンチと第3グリッド設置地点
- 図版第4 調査地点の現状(4) 1, 第4グリッド設置地点 2, 第5グリッド設置地点
- 図版第5 第1トレンチ(1) 1・2, 調査状況
- 図版第6 第1トレンチ(2) 1・2, 調査状況
- 図版第7 第1トレンチ(3) 1, SB-150 2, SK-8
- 図版第8 第1トレンチ(4) 1, SK-16 2, SK-19とSK-20
- 図版第9 第1トレンチ(5) 1, SK-66とSK-64 2, SK-85
- 図版第10 第1トレンチ(6) 1, SK-128 2, 小ビットSP-5群
- 図版第11 第1トレンチ(7) 1, SK-56 2, SK-56における遺物出土状況
- 図版第12 第1トレンチ(8) 1, SK-11における遺物出土状況 2, SK-82における遺物出土状況
- 図版第13 第1トレンチ(9) 1・2, SK-82における遺物出土状況
- 図版第14 第1トレンチ(10) 1・2, SK-98における遺物出土状況
- 図版第15 第1トレンチ(11) 1・2, SK-99における遺物出土状況

- 図版第16 第1トレンチ (12) 1・2、SK-138における遺物出土状況
- 図版第17 第1トレンチ (13) 1・2、包含層における遺物出土状況
- 図版第18 第1トレンチ (14) 1・2、包含層における遺物出土状況
- 図版第19 第1トレンチ (15) 1・2、包含層における遺物出土状況
- 図版第20 第2トレンチ (1) 1、SK2-18とSK2-19 2、SK2-12・SK2-13・SK2-14
- 図版第21 第2トレンチ (2) 1、SK2-16・SK2-15・SK2-17 2、SK2-20
- 図版第22 第2トレンチ (3) 1、SD2a-2における遺物出土状況 2、包含層における遺物出土状況
- 図版第23 第3トレンチ (1) 1、柱穴状小土壇群 2、SK3-14・SK3-15
- 図版第24 第3トレンチ (2) 1、SK3-14 2、SK3-1における遺物出土状況
- 図版第25 第3トレンチ (3) 8～10区における土器溜り
- 図版第26 第3トレンチ (4) 8～10区における土器溜り
- 図版第27 第3トレンチ (5) 8～10区における土器溜り
- 図版第28 第3トレンチ (6) SK3-9・SD3-1における遺物出土状況
- 図版第29 第1グリッド (1) 1、第1グリッド全景 2、SK1G-1とSD1G-7
- 図版第30 第1グリッド (2) 1、SP1G-2とSK1G-1・SD1G-7 2、SP1G-2～4とSK1G-1
- 図版第31 第2グリッド (1) 1、B-C断面 2、SB2G-1とSK2G-2
- 図版第32 第2グリッド (2) 1、SK2G-5 2、SK2G-5における遺物出土状況
- 図版第33 第3グリッド (1) 1・2、掘削状況と全景
- 図版第34 第3グリッド (2) 1・2、SD3G-5
- 図版第35 第3グリッド (3) 1・2、SD3G-6
- 図版第36 第3グリッド (4) 1・2、SK3G-1・SD3G-5における遺物出土状況
- 図版第37 第3グリッド (5) 1・2、SK3G-5における遺物出土状況
- 図版第38 第4グリッド (1) 1、SD4G-1の断面 2、SD4G-1の俯瞰
- 図版第39 第4グリッド (2) 1・2、SD4G-1における遺物出土状況
- 図版第40 第4グリッド (3) 1・2、SD4G-1における遺物出土状況
- 図版第41 第4グリッド (4) 1・2、SD4G-1における遺物出土状況
- 図版第42 第4グリッド (5) 1・2、SD4G-1における遺物出土状況
- 図版第43 第4グリッド (6) 1・2、SD4G-1における遺物出土状況
- 図版第44 第4グリッド (7) 1・2、SD4G-1における遺物出土状況
- 図版第45 土器 (1) 1、1-7 2、1-39 3、1-40 4、1-116 5、1-121 6、1-216
- 図版第46 土器 (2) 1、1-217 2、1-218 3、1-219 4、1-220 5、1-223 6、1-224
- 図版第47 土器 (3) 1、1-241 2、1-260 3、1-278 4、1-556 5、1-567 6、1-568
- 図版第48 土器 (4) 1、1-580 2、1-586 3、1-587 4、1-604 5、1-606 6、2-84
- 図版第49 土器 (5) 1、2-86 2、3-11 3、3-29 4、3-32 5、3-47 6、3-55
- 図版第50 土器 (6) 1、3-72 2、3-101 3、3-103 4、3-123 5、3-136 6、3-150
- 図版第51 土器 (7) 1、3-162 2、3-169 3、3-180 4、3-181 5、3-194 6、3-196

- 図版第52 土器 (8) 1,3-197 2,3-220 3,3-223 4,3-229 5,3-230 6,3-231
- 図版第53 土器 (9) 1,3-232 2,3-233 3,3-234 4,3-242 5,3-260 6,3-263
- 図版第54 土器 (10) 1,3-266 2,3-296 3,3-304 4,3-316 5,3-295 6,3G-8
- 図版第55 土器 (11) 1,3G-48 2,3G-62 3,3G-80 4,3G-87 5,表-1 6,表-3
- 図版第56 木製品 (1) 1、竪杵 2、高杯
- 図版第57 木製品 (2) 1、小形丸木舟 2、柄状木製品 3、不詳木製品
- 図版第58 木製品 (3) 檜形木製品
- 図版第59 木製品 (4)・加工木材 (1) 1、1T東部出土曲物 2、SK2G-5出土木材
- 図版第60 加工木材 (2) 1、SD3G-6出土木材 2・3、SD4G-1出土未完成品と木材
- 図版第61 加工木材 (3) SD4G-1出土木材
- 図版第62 加工木材 (4) SD4G-1出土木材
- 図版第63 加工木材 (5) SD4G-1出土木材
- 図版第64 加工木材 (6) SD4G-1出土木材
- 図版第65 加工木材 (7) SD4G-1出土木材
- 図版第66 加工木材 (8)・瓢箪 1、SD4G-1出土木材 2、SD4G-1出土瓢箪
- 図版第67 木材組織写真 (1)
- 図版第68 木材組織写真 (2)
- 図版第69 石製品 (1) 1、打製石鏃 2、打製石鏃 3、磨製石鏃 4、磨製石鏃 5、磨製石鏃 6、刻器
7、刃器 8、刃器 9、刃器 10、剥片 11、石核 12、石錘
- 図版第70 石製品 (2) 1~4、磨製石包丁 5・6、石斧
- 図版第71 石製品 (3) 1、石斧 2~9、鼓石
- 図版第72 石製品 (4) 1~9、鼓石
- 図版第73 石製品 (5)・骨角製品 1、鼓石 2~7、砥石 8、鹿角 9、骨針
- 付図版第1 第1トレンチSK-93出土の猪頭骨



第1章 位置と環境

第1節 瓜郷遺跡の位置

J R 豊橋駅の東口を出て、駅前大通を市電（豊橋鉄道東田本線）の線路に沿って600mほど進むと新川の交差点に出る。左折して田原街道（国道259号）に入り500mほど進むと西八町の交差点で国道1号に入る。そのまま北進して吉田大橋を渡ると瀬上の交差点に至る。さらに直進すると五つ目の信号が瓜郷町東である。左折して瓜郷橋を渡ると右手に瓜郷遺跡公園がある。この辺りが遺跡の中心である。別途をたどるならば豊橋駅の東口から左の大橋通り（県道豊橋港線）に入る。豊橋商工会議所の前を経てから二つ目の信号が蒲郡街道（国道23号）と交わる守下の交差点である。直進して県道白

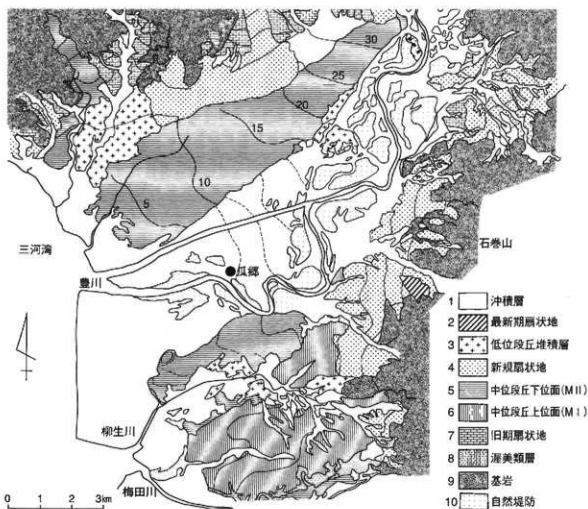


挿図第1 瓜郷遺跡の位置（国土地理院5万分の1地形図「豊橋」）

鳥・豊橋線に入ると二つ目の信号が豊橋南詰である。豊橋を渡って250mほど直進すると国道1号の瀬上の交差点である。また、豊橋を渡って豊橋北の信号を左折して旧東海道（県道白鳥・豊橋線）を北西に向かって直進する。松尾芭蕉の「松葉をたいて」の句碑が存在する聖願寺を左手に見て進むと下地の信号に至る。さらに600mほどで横須賀町の信号に至る。つづいて500mほど進むと江川に架かる鹿首橋である。手前のT字路を右折すると瓜郷遺跡公園・瓜郷橋を経て国道1号の瓜郷町東の信号である。

公共交通機関を使用するならば、JR豊橋駅で飯田線に乗りして二つ目の地下駅で下車する。改札口を出ると目の前が豊川である。右手にとって線路沿いの道を200mほど進むと東海道本線の⑦戌申前架道橋になる。右折してガードを抜け、600mほど東北に進むと県道白鳥・豊橋線の横須賀町の信号に出る。ガードから200mほどの交差点を左折すると下五井地区体育館の手前で江川に出る。橋を渡らずに堤防道を東北に進むと、松原用水江川水道橋を経て300mほどで県道白鳥・豊橋線の鹿首橋南詰に出る。

瓜郷遺跡は、遺跡公園を中心に豊橋市瓜郷町寄道の北部と前川の南部が国史蹟に指定されている



挿図第2 瓜郷遺跡付近の地形（木村一朗他「註1」による）

(挿図第6)が、遺跡は指定地の範囲を越えて広い範囲に存在している。なかでも県道白鳥・豊橋線を超えた横須賀町玄宗の東部と指定地の南側に及んでいる可能性が高い。

第2節 地理的環境

東三河最大の河川である豊川は中央構造線に沿って、南下西流して三河湾に流入している。その中流域・下流域には左右兩岸ともに何段もの河岸段丘が形成されている。その段丘面は大きく高位段丘面(U T)・旧期扇状地面(O F)・中位段丘上位面(M I)・中位段丘下位面(M II)・新期扇状地面(Y F)・低位段丘上位面(L I)・低位段丘下位面(L II)に分別されている。

中央構造線の外帯にあたる豊川左岸の弓張山地の山麓ではU Tに天伯原面、O Fに平野面、M Iに高師原面と豊橋上位面、M IIに豊橋下位面(I面・II面・III面に細別)、Y Fに牛川面、L Iには庭野面、L IIに柳生川下位面が当てられている。

内帯にあたる右岸の三河高原の山麓ではU Tに矢部面と信玄面、O Fには足山田面、M IIに新城面と小坂井面、Y Fに上長山面、L Iに石田面、L IIに牧野面が当てられているが、M Iを欠いている(註1)。

これらの河岸段丘に挟まれた豊川下流の沖積地は右側を小坂井段丘、左側を豊橋下位段丘がつくる段丘崖によって画されて豊橋沖積平野を形成している。沖積平野は豊橋市賀茂町付近から河口にかけて大きく広がり、幅が3 km～4 kmにおよんでいる。その中を豊川がたびたび流路を変えながら蛇行して流下しており、各所に自然堤防が形成されている。また河口部には湾岸流の作用によって形成された海岸砂丘が形成され、三河湾と沖積平野を画している。

この沖積平野はウルム水期後の海進にともなう堆積によって形成され、その上部は縄文海進による堆積である。この面が弥生の小海退がもたらした浸食によって縄文晩期から弥生時代の遺跡が分布する微高地と浅谷からなる地形が形成された。篠東遺跡や瓜郷遺跡が営まれたのもそうした微高地の一つであった。瓜郷ではボーリング調査によって、東西に伸びる微高地とその北側に存在する埋没谷の存在が明らかにされている(註2)。この地形はその後の小海進による堆積の進行によって埋没し、現地形が出来上がっていった。

第3節 歴史的環境

豊橋沖積平野の左岸側と右岸側を画している河岸段丘の段丘崖には所々に豊かな湧水が分布しており、その縁端部を中心に数多くの遺跡が分布している(註3)。

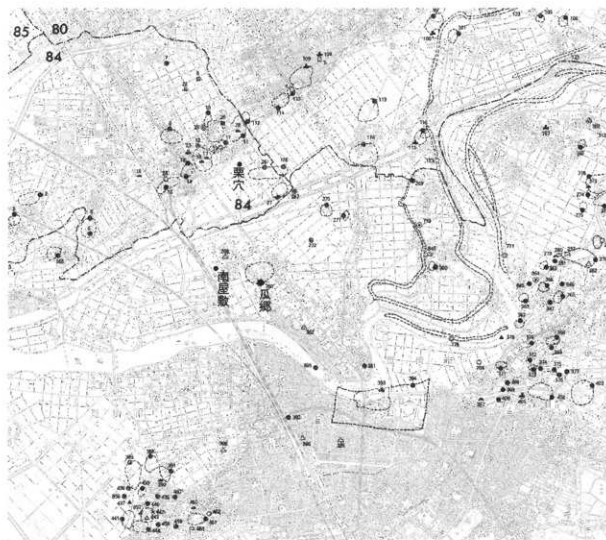
縄文時代には左岸の豊橋低位面・牛川面の縁端部に早期の浪ノ上遺跡(79-278)・眼鏡下池北遺跡(79-846)・おいほて遺跡(79-368)、前期の石塚貝塚(79-392)、中期の坂津寺貝塚(79-388)、後期の坂津寺貝塚・白石遺跡(79-274)、晩期の坂津寺貝塚・王塚貝塚(79-462)・水神貝塚(79-

438)・おいほて遺跡・熊野遺跡(79-363)・稲荷山前遺跡(79-281)・白石遺跡等が存在している。

右岸の小坂井面でも緑端部を中心に遺跡が分布しており、小坂井町菟足神社貝塚(84-14)から早期の押形文土器が表採されている(註4)。晩期には豊川市郷中遺跡(80-103)・小坂井町大堀遺跡(84-8)・榎王貝塚(84-13)・菟足神社貝塚・平井遺跡(84-5)・平井稲荷山貝塚(84-6)などが存在している。地図外であるが、豊川市麻生田当貝津遺跡(80-82)・麻生田大橋遺跡(80-83)は中期～晩期の遺跡であり、一宮町には晩期の水神平遺跡(83-254)がある。

沖積地の自然堤防上には晩期になって五貫森貝塚(79-270)・大蚊里貝塚(79-271)が出現するが、貝塚では豊川流域の最奥に位置している。なお晩期の大西貝塚・白石遺跡・水神平遺跡・麻生田大橋遺跡・郷中遺跡・榎王貝塚・平井稲荷山貝塚・五貫森貝塚から弥生前期の遠賀川系土器が出土して両者の並行関係を示している。

弥生時代中期に入ると、沖積地の自然堤防上に篠塚遺跡(84-27)・吉添遺跡(84-26)・栗穴遺跡(註5)・瓜郷遺跡(79-780)・城向緑遺跡(79-361)・桑原遺跡(79-275)などが出現する。やが



挿図第3 瓜郷遺跡周辺の遺跡(愛知県遺跡地図Ⅲ 東三河地区による)

表第1 瓜郷周辺の遺跡

豊橋市(79) (愛知県遺跡地図(Ⅲ)東三河地区 愛知県教育委員会 1996による)

遺跡番号	遺跡名	時代	遺跡番号	遺跡名	時代
167	下条館跡	中世	389	若宮遺跡	古代～近世
168	池尻遺跡	中世	390	三ツ山古墳	古墳(前方後円墳)
169	五井古屋敷跡	中世	391	境松遺跡	弥生(後)
266	日色野遺跡	弥生	392	石塚貝塚	縄文(前)
267	境田遺跡	弥生(後)	393	吉田城跡	古代～中世
268	下五井館跡	中世	394	臨海遺跡	弥生(中)
269	松の木島遺跡	弥生(後)	397	東田古墳	古墳(前方後円墳)
270	五貫森遺跡	縄文(晩)	398	仁連木遺跡	弥生
271	大蚊里貝塚	縄文(晩)	399	仁連木西遺跡	中世～近世
272	大塚遺跡	弥生(後)	400	東郷遺跡	弥生(中)
273	高井34号墳	古墳	401	仁連木城跡	中世
274	白石遺跡	縄文(後・晩)～中世	402	東田遺跡	弥生・古墳・中世
275	桑原遺跡	弥生(中)	403	西小鷹野遺跡	古墳
276	中野遺跡	弥生(後)	438	水神貝塚	縄文(晩)・古代・中世
277	浪ノ上1号墳	古墳	439	荒神遺跡	中世
278	浪ノ上遺跡	縄(早)・弥生(後)・古墳	440	市道北遺跡	近世
279	稲荷山1号墳	古墳	441	大海津遺跡	古墳～近世
280	稲荷山2号墳	古墳	442	市道遺跡	古代～近世
281	稲荷山前遺跡	縄文(晩)・弥生	443	市道1号竪	古代
282	浪ノ上古屋敷	中世	444	公文遺跡	古代～近世
318	高井遺跡	弥生(中)・古墳	456	外神遺跡	古代～中世
359	南田遺跡	古代	457	八王子神社遺跡	中世
360	塩田遺跡	弥生	458	市道西遺跡	中世
361	城向緑遺跡	弥生(中)	459	林遺跡	中世
362	下地館跡	中世	460	辛呂八幡社古墳	古墳
363	熊野遺跡	縄文(晩)・古墳	461	見丁塚遺跡	弥生～古墳
364	西側古基	中世	462	王塚貝塚	縄文(晩)
365	西側遺跡	弥生～近世	463	東脇古墳	古墳
366	東側遺跡	弥生～近世	764	關降遺跡	縄文
367	洗島遺跡	縄文・古代～近世	765	中郷遺跡	中世
368	おいぼて遺跡	縄文(早・晩)・弥生	766	羽田古屋敷跡	中世
369	牛川B遺跡	古墳	777	下条露堤	近世
370	牛川北遺跡	中世～近世	778	牛川露堤	近世
371	葉師寺遺跡	中世～近世	779	大村露堤	近世
372	南牛川D遺跡	弥生	780	瓜郷遺跡	弥生(中)・古墳・古代
373	南牛川A遺跡	中世～近世	843	こんろうぼ古墳	古墳(前方後円墳)
374	西先原遺跡	縄文～古代	845	西側北遺跡	縄文・弥生・古代
375	東先原遺跡	縄文	846	腰鏡下池北遺跡	縄文(早)・弥生～古代
376	南牛川C遺跡	縄文	847	中郷西遺跡	中世～近世中世
377	もぐら沢遺跡	中世～近世	895	豊川河床遺跡	中世
378	牛川焼窯跡	近世	新	南屋敷遺跡	中世
388	坂津寺貝塚	縄文(中～晩)・古代			

豊川市(80)

遺跡番号	遺跡名	時代	遺跡番号	遺跡名	時代
99	瀬木遺跡	弥生・中世	110	熊野神社遺跡	弥生(中・後)
100	瀬木城址	室町	111	下長山遺跡	弥生(中)
101	院の子遺跡	鎌倉	112	下長山境遺跡	中世
102	三ツ橋城跡	鎌倉	113	正岡遺跡	弥生(中・後)
103	郷中遺跡	縄文(晩)・弥生(中)	114	行明遺跡	弥生(後)・古墳～中世
105	伝五郎屋敷遺跡	中世	115	行明城跡	鎌倉
106	当古遺跡	中世	116	末広遺跡	弥生～中世
108	一色城跡	室町	123	よろい堤	近世
109	牛久保城跡	室町	126	吉澤遺跡	弥生

小坂井町(84)

遺跡番号	遺跡名	時代	遺跡番号	遺跡名	時代
2	中村遺跡	弥生(後)～中世	16	観音山古墳	古墳

遺跡番号	遺 跡 名	時 代	遺跡番号	遺 跡 名	時 代
3	市場遺跡	中世	17	糟塚古墳	古墳
4	伊奈遺跡	弥生(中・後)伊奈銅鐸	18	五社稲荷古墳	古墳
5	平井遺跡	縄文(晩)～古墳・中世	19	篠末古墳	古墳
6	平井稲荷山貝塚	縄文(晩)～弥生	20	医王寺廃寺	古代～中世
7	権平貝塚	中世	22	篠末城跡	中世
8	大塚遺跡	縄文(晩)	23	糟塚砦跡	中世
9	北浦貝塚	弥生(後)～中世	24	倉屋敷代官所跡	中世
10	西宮遺跡	古代～中世	25	傾城塚	中世
11	郷中遺跡	弥生(後)～中世	26	吉添遺跡	弥生(中・後)・古代中世
12	欠山遺跡	弥生(中・後)・中世	27	篠末遺跡	弥生(中)
13	榎王貝塚	縄文(晩)～弥生(中)	28	魚見古墳	古墳
14	葛足神社貝塚貝	縄文(早・晩)～弥生(後)	新	栗穴遺跡	弥生(中・後)
15	蔵屋敷遺跡	弥生(後)～中世			

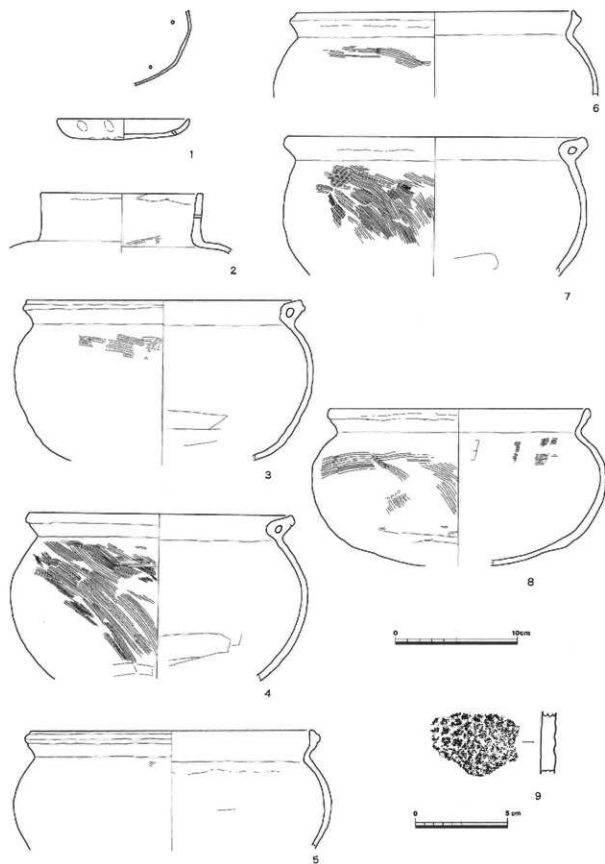
て左岸の段丘縁端部に高井遺跡(79-318)・鮎海遺跡(79-394)・東郷(79-400)・右岸の段丘に豊川市郷中遺跡(80-103)・熊野神社遺跡(80-110)・下長山遺跡(80-111)・小坂井町欠山遺跡(84-12)・榎王遺跡(84-13)・伊那遺跡(84-4)などが営まれる。

後期の左岸段丘には中野遺跡(79-276)・浪ノ上遺跡(79-278)・境松遺跡(79-391)・右岸段丘に豊川市郷中遺跡(80-103)・熊野神社遺跡(80-110)・小坂井町中村遺跡(84-2)・伊那遺跡(84-4)・北浦貝塚(84-9)・郷中遺跡(84-11)・欠山遺跡(84-12)・蔵屋敷遺跡(84-15)などが分布する。沖積地では境田遺跡(79-267)・松の木島遺跡(79-269)・大塚遺跡(79-272)・豊川市正岡遺跡(80-113)・行明遺跡(80-114)・小坂井町吉添遺跡(84-26)・栗穴遺跡(新)等が存在する。

古墳時代に入っても、瓜郷遺跡や浪ノ上遺跡などが前代に引き続いて営まれる。台地の縁端部や丘陵に前・中期の円(方)墳や前方後円墳が築造される。左岸では高井34号墳(79-273)・浪ノ上1号墳(79-277)・稲荷山1号墳(79-279)・稲荷山2号墳(79-280)や東田古墳(79-397)・三ツ山古墳(79-390)・右岸では小坂井町五社稲荷古墳(84-18)・糟塚古墳(84-17)・魚見古墳(84-28)などである。

古代になると左岸段丘に洗島遺跡(79-367)・若宮遺跡(79-389)・吉田城跡(79-393)・大海津遺跡(79-441)・市道遺跡(79-442)・外神遺跡(79-456)・右岸台地には小坂井町西宮遺跡(84-10)・欠山遺跡(84-12)・医王寺廃寺(84-20)・沖積地には吉添遺跡(84-26)・瓜郷遺跡(79-780)などがある。この時代には豊川市白鳥遺跡(80-65)・国分寺跡(80-19)・国分尼寺跡(80-22)・医王寺廃寺や市道遺跡など官衙や寺院が出現する。また東海道の整備に伴って現在の豊橋沖積地平野を横断する鹿苔の渡りが設置されたが、毎年繰り返される出水や堆積の進行にともなう往來の不便さから、旅の難所として歌枕にもなったのであろう。

中世に入ると左岸段丘に白石遺跡(79-274)・洗島遺跡(79-367)・牛川北遺跡(79-370)・薬師寺遺跡(79-371)・南牛川A遺跡(79-372)・もぐら沢遺跡(79-377)・若宮遺跡(79-389)・吉田城跡(79-393)・仁連木西遺跡(79-398)・仁連木城跡(79-401)・東田遺跡(79-402)・水神貝塚(79-438)・荒神遺跡(79-439)・大海津遺跡(79-441)・市道遺跡(79-442)・公文遺跡(79-444)・外神遺跡(79-456)・八王子子社遺跡(79-457)・市道西遺跡(79-458)・林遺跡(79-459)・中郷遺跡(79-765)・羽田古屋敷跡(79-766)・中郷西遺跡(79-847)などが分布している。



挿図第4 南屋敷遺跡（1～8）・菟足神社遺跡（9）出土 土器実測図

右岸段丘には豊川市一色遺跡(80-108)・瀬木城跡(80-100)・牛久保城跡(80-109)・下長山境遺跡(80-112)・小坂井町市場遺跡(84-3)・平井遺跡(84-5)・権平貝塚(84-7)・北浦貝塚(84-9)・西宮遺跡(84-10)・郷中遺跡(84-11)・欠山遺跡(84-12)・蔵屋敷遺跡(84-15)・篠東城遺跡(84-22)・糟塚砦跡(84-23)・倉屋敷代官所跡(84-24)・傾城塚(84-25)などが存在している。

沖積地では吉添遺跡(84-26)・下条館跡(79-167)・池尻遺跡(79-168)・五井古屋敷跡(79-169)・下五井館跡(79-268)・下地館跡(79-362)・豊川河床遺跡(79-895)・瓜郷遺跡(79-780)・南屋敷遺跡(新、註6)・豊川市瀬木遺跡(80-99)・瀬木城跡(80-100)・院ノ子遺跡(80-101)・三つ橋遺跡(80-102)・伝五郎屋敷遺跡(80-105)・当古遺跡(80-106)・行明遺跡(80-114)・行明城跡(80-115)・末広遺跡(80-116)・南屋敷遺跡(新、挿図第4)などが断続して営まれる。沖積地におけるこうした堆積の進行は、十六夜日記にみえるように東海道を上流の豊川の宿を経由する後の姫街道に移行させ、鹿苔の渡りは廃絶して周辺の地は小集落が点在する農村になったようである。

註1 木村一朗他「豊川中流および下流の段丘と更新統」『愛知教育大学研究報告30』愛知教育大学1981

註2 井関弘太郎「瓜郷遺跡の自然環境」『瓜郷』豊橋市教育委員会1963

「篠東遺跡の地形環境」『篠東第1次報告』愛知県小坂井町教育委員会1960

「吉添遺跡の自然環境」『篠東遺跡群』小坂井町教育委員会1998

註3 遺跡名・遺跡番号・遺跡地図『愛知県遺跡地図(Ⅲ)東三河地区』愛知県教育委員会1996による。

註4 挿図第4の9は愛知県立蒲郡高等学校蔵

註5 中村文哉他「栗穴遺跡」『篠東遺跡群』小坂井町教育委員会1998

註6 中村澄雄氏提供。豊橋市下五井町南屋敷15より出土。

第2章 調査の経緯

第1節 調査の歴史

伊藤博敏（法一）氏によって本遺跡が発見されたのは1986（昭和11）年である。その後太平洋戦争中に鹿管耕地整理事業が開始され、江川の付け替えが計画された。1946年に終戦によって中断されていた工事が再開され、遺物が紅村弘氏によって採集された。これを知られた久永春男氏は山内清男（東大）氏と1947年5月に江川河底を試掘され、木製遺物の出土が予想される低湿地遺跡であることを確かめられた。さっそく豊橋史談会（会長丸地古城氏）が中心となって瓜郷遺跡調査会（会長青柳秀夫 愛知県知事・副会長大竹藤吉豊橋市長）が設立された。発掘は調査会が中心となり、出土遺物は全て地元に一括して保管するという新しい方針のもとに、調査が開始されることになった。



挿図第5 大蚊里貝塚（79 - 271）発掘参加者

前列右より 後藤守一（明治大）、酒詰仲男（東京大）、杉原莊介（明治大）、菊池義次（早稲田大）、中列右より 紅村弘（調査会）、和島誠一（東洋大）、丸地古城（調査会）、久永春男（調査会）、鈴木文吉（岡崎史談会）、？、内田敬二郎（明治大）、竹内進（明治大）、川上久夫（明治大）、？、後列右より 大塚初重（明治大）、芳賀陽（調査会）、鈴木利雄（北部中）、鈴木武（北部中）、岡本勇（明治大）、渡辺直経（東京大）、？の各氏

第1回調査は1947年11月9日～12月23日に実施された。すでに存在が知られていた第Ⅰ貝塚～第Ⅳ貝塚のうち第Ⅱ貝塚および第Ⅲ貝塚の調査と、植物性遺物の出土が期待される江川河底の調査が行われた。

第2回調査は1948年4月14日～5月1日に実施された。まず瓜郷周辺遺跡調査の一環として、上流の自然堤防上に存在する縄文時代晩期の大蚊里貝塚（挿図第3の79-271）の発掘調査が行なわれた（註1）。続いて瓜郷遺跡においては江川を上下の堰堤で締め切り、河底の発掘が行なわれた（図版第1の2）。

第3回調査は1948年11月22日～12月4日に実施された。発掘場所は江川河底地区の第2回調査区の上流側である。発掘調査と並行してボーリングによる遺跡周辺の地理的調査が実施された。

第4回調査は1949年4月23日～5月5日に実施された。今回の発掘場所は江川河底地区で、瓜郷橋の下手から鹿菅橋の上手までである。新たにL-10型大地比抵抗測定器を用いた物理探査が実施された。また前回に継続して5mのボーリング棒を用いた遺跡周辺の地理的調査が行なわれた。

第2次瓜郷周辺遺跡の調査として、1949年10月17日～25日と1950年3月6日～13日の2次にわたって、大蚊里貝塚の西方に位置する五貫森遺跡（挿図第3の79-270）の発掘が行なわれた（註2）。

第5回調査は1952年10月21日～12月26日に実施された。発掘場所は第Ⅱ貝塚で、第1回調査地点の東側である（図版第1の1）。

以上で瓜郷遺跡調査会の発掘調査は終了し、1963年に発掘調査報告書『瓜郷』が豊橋市教育委員会によって刊行された（註3）。

第2節 今回の調査

瓜郷遺跡としては6回目に当たる今回の調査は、豊橋市営下水道事業の工事に伴うものである。発掘は工事計画に基づいて、3次に分けて実施した。調査区の大半は道路で史跡指定地外があるが、指定地にかかる部分があり、1982年6月25日付けで文化庁に「史跡瓜郷遺跡の現状変更許可申請書」を提出した。昭和57年7月16日付けで、委保第4の562号「史跡瓜郷遺跡の現状変更（汚水柵設置）について（通知）」を受けた。

1、第1次調査

期 間 1982年7月21日（水）～8月31日（火）

調査地点

- ①第1トレンチ 豊橋市瓜郷町寄道地内で、第Ⅰ貝塚・第Ⅲ貝塚と第Ⅱ貝塚・第Ⅳ貝塚の間を通して国道1号と県道白鳥・豊橋線（旧東海道）を結ぶ道路の中央部に設置した。下水管理設予定地で、トレンチは長さ180m、幅1mである（図版第2の1）。
- ②第2トレンチ 第Ⅱ貝塚・第Ⅳ貝塚の北側にあたる鹿菅橋南詰より上流25m地点から39m地点間にあたる江川左岸の堤防の中央部に設置した。長さ14m、幅1mの下水管理設予定地である（図

版第2の2)。

参加者

調査主任 芳賀陽

調査員 鈴木遼修 (愛知大学学生)・石川明弘 (奈良大学学生)

調査補助員 鈴木と志子・中山みね子・日比朝子・日比豊子

愛知大学考古学研究会 杵名信光・都築久美子・大竹良子・原田直治・川崎信一・武田光志・

加藤千尋・錦柄利江子

(1) 第1トレンチ

住民の要望で、県道白鳥・豊橋線の東側から8mほど東に入った道路中央に基準点を設置した。ここから東に向かって25m単位で発掘を進めることにした。まず舗装を切断し、重機で表土と包含層を覆う土層を掘削した。通行を完全に遮断することが出来ないで、排土を他の場所に移動させ、トレンチをフェンスで囲った。

層序は上から厚さ50cmほどの表土(道路の盛り土)、厚さ80cm前後の暗灰色シルト、次いで包含層である厚さ10cmほどの暗紫色シルトである。その下が基盤である褐色粘土(含酸化鉄)で、遺構はこの層に刷り込まれている。遺構には検出された順に番号を付けていった。

トレンチは素掘りで調査を進めたが、地層の一部に軟弱なところがあり、27m~30mにかけて南壁が崩落した。排土に重機が使用できないため、この部分の平面図の作成を断念した。

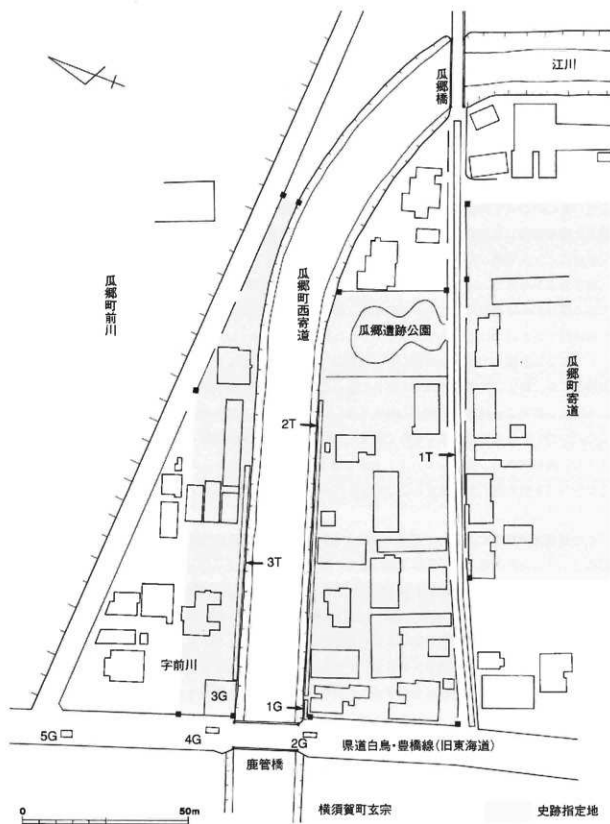
8月1日夜半、台風10号が接近し渥美半島に上陸した。雨のため48m~55m地点の南壁が再び崩落した。つづいて8月3日の集中豪雨では電柱が傾いたため、保全処置としてトレンチが埋められてしまった。地層が軟弱であること、トレンチの深さが130cmを越えることなど再度の崩落が予想されることから、木の支保工を設置することになった。断面図作成のため、矢板の間隔を1枚毎に1枚分空けてもらうことにした。

その後発掘は順調に進行し、遺構の検出が相次いだ。151m付近で暗紫色シルト層の下に現われた幅約2mの青灰色砂層の落ち込みを掘り進むと激しい湧水が始まった。ポンプによる排水では対応できなかったため、この濠状遺構の掘下げを断念した。157m付近から基盤が低下しはじめ、163m付近では260cmに達し、支保工の枠を2段にした。遺構や遺物がまったく存在せず、傾斜面に木の葉が散乱した状態で出土した。遺跡東端の水辺と推定されたので、171mでトレンチの東端とすることにした。

0点と旧東海道の間に西拡張区を設定して調査に入った。遺構が少なく、5m付近で基盤が急傾斜で落ち込み、濠状遺構の存在が想定された。深さが木製支保工の限界をこえるため、以西の追究をあきらめ、0点から7m地点をトレンチの西端とした。

(2) 第2トレンチ

豊橋市下水道局から要望があり、江川左岸の堤防上の下水管理設予定地の調査を緊急に付加えることになった。予定地東端から西に向かって長さ14m、幅1mの第2トレンチを設定した。8月25日から重機を使って包含層を露出させて発掘を進めた。遺構は溝と柱穴状小ビットで、検出順に番号を付けていった。8月末迄に平面図・北壁断面図の作成を終え、埋戻しは業者に任せて今後の調査を終了した。



挿図第6 トレンチとグリッドの位置

2、第2次調査

期 間 1982年12月10日（金）～1983年1月24日（月）

調査地点 下水道幹線は県道白鳥・豊橋線のセンター西側に設置予定である。工事はシールド工法によるトンネル掘りで実施されるが、マンホール枠の設置が必要なため、その設置箇所を調査グリッドとした。

- ①第1グリッド 鹿荻橋南詰の上流側堤防上の幹線下水道枠設置予定地（図版第2の2）。
- ②第2グリッド 鹿荻橋南詰の旧東海道の中心から西寄りに位置する幹線下水道枠設置予定地（図版第3の1）。
- ③第3グリッド 鹿荻橋北詰の東側の幹線下水道枠設置予定地。（図版第3の2）
- ④第4グリッド 鹿荻橋北詰の旧東海道の中心から西寄りに位置する幹線下水道枠設置予定地。（図版第4の1）
- ⑤第5グリッド 鹿荻橋北詰から50mの旧東海道の中心より西寄りに位置する幹線下水道の枠設置予定地（図版第4の2）。

参加者

調査主任 芳賀陽

調査員 小畑頼孝（豊橋市教育委員会嘱託）

調査補助員 鈴木と志子・中山みね子・日比朝子・日比豊子

愛知大学考古学研究会 鈴木途修・香名信光・都築久美子・大竹良子・永田ひろみ・原田直治・川崎信一・武田光志・加藤千尋・錦柄利江子・石黒弥生

（1）第1グリッド

下水道の幹線はトンネル掘りであるが、鹿荻橋を迂回して江川を横断するために必要な枠の設置予定地である。規模は長さ4.2m、幅が2.2mである。幹線枠ということで設置が支線より深いため、鋼鉄製の支保工が採用され、層序観察用の隙間を設けることができない。12月12日（日）、矢板に接して断面図作成用の壁を残して包含層を露出させ、発掘を開始した。西半部に現われた溝状遺構に土器片が大量に包含されていた。また東端部には住居址の一部らしい遺構が出現した。12月21日に平面図と断面図を完成させ、このグリッドの調査を終了した。

（2）第2グリッド

下水道幹線を鹿荻橋南詰上流側の第1グリッドに向けて曲げるための枠設置予定地で、規模は長さ4.5m、幅2.2mである。1月20日に重機を用いて層序観察用の壁を残して包含層の上面まで除去し、排土のためにベルトコンベアを設置して発掘を開始した。住居址や土壌が検出され、1月24日に平面図・断面図を完成させ、このグリッドの調査を終了した。

（3）第3グリッド

第1グリッドから江川河底を横断してくる下水道幹線を受け、県道に戻すための枠設置予定地である。長さ5m、幅4mと他のグリッドより規模が大きい。その南半部は堤防兼道路、北半部は史跡指定地である瓜郷町字前川43番地である。12月10日から重機によって層序観察用の壁を残して包含層を

露出させた。検出された溝状遺構には土器片が多量に含まれており、上下2面で分布図を作成した。さらに掘り進むと下層に別の溝状遺構が存在し、木の葉をはじめとする植物が包含されていた。なかに直径60cm長さ70cm前後の木材があり、木器用材の保管場所と推定された。遺構の掘り上げ・平面図・断面図の作成を終えて、12月21日にこのグリッドにおける作業を終了した。

(4) 第4グリッド

第3グリッドから来る下水道幹線を屈折させて、白鳥・豊橋線に戻すための柵設置予定地である。昭和58年1月6日に重機によって包含層である暗青灰色粘土層まで掘り下げた。排土処理のためベルトコンベアを設置して発掘を進めた。暗青灰色粘土層は溝状遺構の埋土で、下半部から大量の木質遺物が出土した。1月17日に平面図・断面図を完成させてこのグリッドの調査を終了した。

(5) 第5グリッド

幹線下水道の第4グリッドに次ぐ柵設置予定地である。1月24日に重機を使用して第3グリッド・第4グリッドの深さまで掘り下げたが、遺物包含層は検出できなかった。

3、第3次調査

期 間 1983年3月3日(木)～22日(火)

調査地点

①江川左岸の第2トレンチ(2次) 第2トレンチ(1次)と第1グリッド間の下水道支線の設置予定地(図版第2の2)。

②江川右岸の第3トレンチ 第3グリッドから上流側の下水道支線設置予定地(図版第3の2)。

参加者

調査主任 芳賀陽

調査員 小畑頼孝(豊橋市教育委員会嘱託)

調査補助員 長坂和彦・伊海徹・鈴木と志子・中山みね子・日比朝子・日比豊子

愛知大学考古学研究会 三須信二・山本久代・岡田学・香名信光・武田光志・川崎信一・

富永欣吾・加藤千尋・石黒弥生・永田ひろみ

(1) 第2トレンチ(2次)

トレンチの規模は長さ21m、幅が1mである。層序観察用の隙間を空けて矢板を打ち、重機によって排土して包含層を露出させた。西端から3m単位で区切って1～7区を設定し、昭和58年3月7日から発掘を始めた。今回は検出した遺構には柱穴・土壇・溝・住居址別に番号を付けることにした。3月22日に南壁断面図・平面図を完成させて、このトレンチにおける調査を終了した。

(2) 第3トレンチ

1983年3月3日、鹿音橋北詰から上流12m地点を0点とし、長さ30m、幅1mのトレンチを設置した。層序観察用の隙間を設けて矢板を打ち、包含層まで排土した。長さ3mを1区として10区に分けて、全区同時に発掘を開始した。検出した遺構には類別番号を付けることにした。9～10区に土器溜りが現われた。10区の土壇から矢板に打ち抜かれた状態でバレス様式の壺が出土した。そのためトレンチを南北に拡張した。新たに柵を設置するということで、トレンチを東方に延長し新たに11区を設

定した。また当初の予定になかった第3グリッドと第3トレンチの間も調査することになり、西拡張区を設定して調査を進めた。3月17日にこのトレンチにおける調査を終了した。

註1 報告書未刊。出土資料は豊橋市教育委員会保管。略報・資料紹介に次のものがある

- ・酒詰伸男「豊橋市大蚊里貝塚」『日本考古学年報1』1951
- ・紅村 弘「東海の先史遺跡総括編」1963

註2 報告書未刊。出土資料は明治大学考古学研究室保管。略報・資料紹介に次のものがある

- ・杉原莊介「愛知県豊橋市五貫森貝塚」『日本考古学年報2』1952
- ・杉原莊介「愛知県豊橋市五貫森貝塚」『日本考古学年報3』1953
- ・杉原莊介・外山和夫「豊川下流域における縄文時代晩期の遺跡」『考古学集刊2-3』1964

註3 本節は次の文献を参照した

- ・『瓜郷遺跡発掘調査報告』瓜郷遺跡調査会 1948年11月
- ・『瓜郷遺跡発掘調査報告』瓜郷遺跡調査会 1949年4月
- ・『瓜郷遺跡発掘調査報告』瓜郷遺跡調査会 1949年11月
- ・『五貫森遺跡発掘調査報告』瓜郷遺跡調査会 1950年3月
- ・和島誠一・久永春男他『瓜郷』豊橋市教育委員会1963

第3章 層序と遺構

第1節 第1トレンチの層序と遺構

1、第1トレンチの位置（挿図第6、図版第2の1）

第1トレンチは瓜郷遺跡公園の南側を通過して国道1号と県道白鳥・豊橋線を結ぶ道路における下水管設置予定地である。道路のセンター部分に設けたトレンチは長さ178m、幅が1mである。断面図を作成した南壁の一部が側面前に崩落（挿図第6の1）して、東西のつながりが明らかでないため、崩落部分を境にして48m地点以西の約50m余と57m以東の約110m余に分けて観察することにした。

2、層序（挿図第7～16）

（1）西半部の層序（挿図第7～9）

A、基本層序

トレンチの最上層はⅠ層で、道路建設に当たって他所から搬入された黄褐色砂礫層である。Ⅱ層は褐色シルト層で、Ⅲ層の上面の比高が低いトレンチ西端部に存在している。東半部の基本層序からみてⅠ層と同様の性格をもつ層が、あるいはこの地点におけるもっとも新しい堆積層と推測される。Ⅲ層は暗灰色シルト層で、トレンチの全面に広がっており、層厚は厚い部分で130cmに及ぶ。Ⅱ層が存在しない部分における堆積層の最上層で、層の上面は埋め立て以前の水田面である。Ⅳ層は茶褐色シルト層で、トレンチの東寄りではⅢ層の下に広がっているが、トレンチの西寄りには存在しない。Ⅴ層は黒褐色シルト層で、トレンチ全体に広がっている。遺構は現地表とⅠ層の形成面に掘り込まれている現代の遺構を除くと、1）Ⅴ層に掘り込まれⅢ・Ⅳ層によって覆われているものと、2）Ⅵ層に掘り込んで構築されⅤ層によって覆われているものに分けられる。Ⅵ層は基盤層である。上部は管状をなす酸化鉄を多量に含み黄褐色を呈するが、下部は青灰色を呈するシルト層である。

B、遺構の埋土

遺構によって埋土の状態は異なるが、総括すると①褐色シルト・②青灰色砂質シルト・③黒褐色シルト・④暗茶褐色シルト・⑤黒茶褐色シルト・⑥暗灰色シルト・⑦暗黄褐色シルト・⑧黄褐色シルト・⑨黒灰色シルトなどである。

（2）東半部の層序（挿図第10～15）

A、基本層序

トレンチ東半部の最上層であるⅠ層は、トレンチ西半部と同様に他から搬入された黄褐色砂礫層である。Ⅱ層は暗紫色シルト層で、Ⅰ層とⅢ層の間に部分的に存在する。東半部における最上層にあたる堆積層であろう。Ⅲ・Ⅳ層は淡黄褐色シルト層で、断面図では連続していないが同一の堆積層であろう。Ⅴ層は黄褐色シルト層で55m～100mの区間では最上層の堆積層である。Ⅵ層は黄褐色シルト層でⅢ・Ⅳ層の下に伸びており、Ⅴ層と同一の堆積層である可能性が高い。Ⅶ層は黄褐色シルト層でトレンチ東端部の160m付近では堆積層の最上層をなすが、156m付近でⅣ層の下になる。Ⅷ層は暗茶

褐色シルト層で、55m～70mでXⅣ層を覆っている。Ⅸ層は明茶褐色シルト層で、106m～123mにかけて伸びており120m前後では堆積層の最上層であるがⅡ層の下に潜っている。X層は灰褐色シルト層で、149m付近からⅣ層・Ⅷ層の下を東に伸びており167mからは堆積層の最上層をなしている。Ⅺ層は青灰色シルト層で150m以東のX層の下に伸びてⅫ層を覆っている。Ⅻ層は淡青灰色砂質シルト層で、Ⅺ層の下に存在する。XⅢ層は淡青灰色砂質シルトで、Ⅻ層の下に伸びてXⅤ層を覆っている。XⅣ層は暗紫色シルト層で、55m～127mにかけて広く伸びている。層の様相や遺構との関係からトレンチ西半部のV層暗紫色シルト層と同一の堆積層と思われる。XⅤ層は明茶褐色シルト層で、138m以東に伸びており多くの遺構を覆っている。XⅥ層は明茶褐色シルト層で、121m～144mに存在する最下層の包含層である。XⅦ層は基盤をなすシルト層で、トレンチ西半部と同様に、上部には管状の酸化鉄が多量に形成されている。

断面によって観察される遺構は地表・道路の盛土から掘り込まれた現代のものを除くと、1)Ⅵ層に掘込みⅢ・Ⅳに覆われたもの、2)XⅣ層に掘り込んで構築されV層・Ⅵ層・Ⅸ層に覆われているもの、3)XⅥ層に掘り込みXが覆っているもの、4)基盤に掘り込んで構築しXⅣ層・XⅤ層が覆っているものと4期に分けられる。

B. 遺構の埋土

遺構ごとに埋積している状態は異なるが、総括すると①灰黒色シルト・②暗紫色シルト・③明茶褐色シルト・④明紫色シルト・⑤暗茶褐色シルト・⑥茶褐色シルト・⑦灰茶褐色シルト・⑧暗青灰色シルト・⑨淡青灰色シルト・⑩淡灰黒色シルト・⑪暗灰黒色シルト・⑫混貝暗紫色シルト・⑬黒色有機土・⑭黒褐色シルト・⑮明褐色シルト・⑯明灰色シルト・⑰明灰黒色シルト・⑱灰・⑲炭・⑳焼土などである。

(3) 西半部と東半部の層序対比

西半部の基本層序は6層で構成され、基盤である酸化鉄が付着した根の痕跡が残るⅥ層上の堆積を示している。東半部の基本層序は西半部と同じ基盤上に堆積した15層である。そのうちX層～XⅢ層はトレンチ東端部にみられる埋もれ谷における堆積である。谷に面した微高地の上面における堆積はⅠ層～Ⅸ層・XⅤ層である。この中にはⅡ層とⅢ層やV層とⅥ層のように同一の堆積と推定されるものもあり、堆積の状態は西半部によく似ている。東半部において4)の遺構群を覆っているXⅣ層と西半部においてⅥ層に掘り込まれた2)の遺構群を覆っているV層は共に暗紫色シルト層で、覆っている遺構も共通しており同一の堆積として良いであろう。またXⅤ層は谷底部から伸びてきて基盤に掘り込んだ遺構を覆っている。XⅣ層との関係は明確でないが同時期かそれに近いと推察される。

3. 遺構 (表第2)

トレンチの幅が1mという制約から遺構の形状把握が困難なため、柱穴状小土竈を除く遺構については検出順に番号をつけた。後で番号に遺構記号を付したため、遺構の種別ごとの通し番号になっていない。

(1) 竪穴式住居址

S B-62 72m～74.5m地点に存在した遺構で、方形竪穴の一隅と推測される。柱穴1と壁にそった杭穴列が検出されている。

S B-67 72m~75.5m地点に存在した遺構で、隅丸方形堅穴の一隅であろう。床面には焼土が広く分布している。この遺構に伴う柱穴は確認されていない。

S B-75 86.0m~地点に存在した遺構である。半ばを新しい溝によって破壊されて形状・規模は不明であるが、床面が水平で灰の堆積や焼土が遺存したことから堅穴式住居址とした。

S B-102 119m~121.5m地点に存在した遺構で、方形堅穴住居址の一隅であろう。最大残存長は3m以上で、柱穴1を伴っている。

S B-104 121.5m~123m地点に存在する遺構である。S B-102に切られており、壁が直線状を呈する以外の形状は明らかでない。

S B-150 (図版第7の1) 139.5m~142m地点の最下層に存在する遺構である。幅が3.4m以上と推測される隅丸方形の堅穴式住居址で、壁の2箇所に柱穴が存在している。

(2) 土壌

表に掲載した土壌は111を数える。個々の計測値・形状・出土遺物などは表第2に委ねるとして、規模についてトレンチの幅1mを基準にしてみると、1) S K-66 (図版第9の1)・S K-128 (図版第10の1)のように壁にかからずに完全な形で検出されたものが28%である。2) S K-16 (図版第8の1)・S K-19・20 (図版第8の2)・S K-85 (図版第9の2)などトレンチ側壁の片方にかかったものが65%である。3) S K-11 (図版第12の1)・S K-99 (図版第17)のように両壁にかかったものは9%である。1)と2)を合わせると93%になり、小規模な土壌が圧倒的に多く、規模が大きなものは極めて少ないことが判明する。

S K-11 (図版第12の1) 15m~19m地点に存在した遺構である。壁面の傾斜が緩やかで床の割合が小さく、柱穴等も検出されていない。計測し得る最大幅が3.7mと大型の土壌である。両壁の下に伸びており平面形は不明である。底面から壺(1-39)が出土した。

S K-56 (図版第11の2) 68m付近の壁沿いに存在した長さ2mほどの長方形土壌である。底面から平安朝瓷器の把手付き壺1-121が出土した。

S K-82 (図版第12の2、13の1・2) 97m付近に存在した径が2mほどの不整形の土壌で、上端の一部をS K-83に切られている。底部から土器・石斧・鼓石などが出土した。

S K-85 (図版第9の2) 101m付近に存在した径70cmほどの円形に近い土壌で、破砕した貝殻で埋められていた。底面は径20cm~30cmの柱状穴の凹みに3分割されていた。

S K-93 107m付近に存在した150cm以上の径をもつ土壌で、半ば以上が側壁下に隠れており平面形は不明である。一部をS K-95に切れ、S K-92を切っている。下層からはほぼ完全な猪の頭骨(付図版第1)が出土した。その観察結果は付載として載録した。

S K-98 (図版第14-1) 112m~114mかけて存在した径が3m以上の大型土壌である。大部分は両側壁の下に隠れているため規模・平面形は不明である。遺構の下部から壺の口縁部(1-269)が出土した。

S K-99 (図版第17の1・2) 115m付近に存在し、両側壁の下に伸びているが径150cmほどの不整形の土壌と推測される。底面から石包丁の断片(13)が出土した。

S K-138 (図版第18の1・2) 144m付近に存在した径40cm前後の小型土壌である。下部より

表第2 第1トレンチ遺構一覧表

検出	遺構番号	位置	平面形	規格	埋土	出土土器	切合
9	SK-1	0~1m	円形?	計測不能	黒褐色シルト	検出第26の1~14	
9	SK-2	3~4m	長円形	180×60αcm	黒褐色シルト	検出第26の15~19	
9	SK-3	8.0m	隅丸長方形	30×20cm			
9	SK-4	8.5m	隅丸長方形	37×28cm			
9	SK-5	9.0m	隅丸方形	60×α55cm	黒褐色シルト		
9	SP-6	10.0m	長円形	30×15cm			
9	SK-7	11.0m	不整形円形	33×30cm			
9	SK-8	12.0m	不整形円形	56×50αcm			
9	SK-9	13.0m	不整形円形	30×20.50×?cm			A-B-C
10	SK-10	14.5m	不整形円形	?・120・35×20cm		検出第26の20~24	C-A-C-B
10	SB-11	15~19m	長円形?	370α×?cm	黒褐色シルト	検出第27の25~41	
10	SP-12	19.2m	双円形	36×20cm			
10	SK-13	20.5m	不整形円形	72cm×?cm		検出第27の42~46	?A・B・C
10	SK-14	23.0m	長円形	?×60cm	暗灰褐色シルト		
10	SK-15	25.0m	円形?	94cm×?cm	黄色シルト	検出第39の338~341	
10	SK-16	32.5m	長円形	?×105cm		検出第27の47・48	
11	SK-17	34.0m	不整形円形	50×35cm			
11	SK-18	35~36m	不整形方形	150×?cm	暗茶褐色シルト	検出第27の49~51	
11	SK-19	37.0m	不整形円形?	?×?cm	灰黒色・黄色シルト	検出第28の52~54	-21
11	SK-20	38~39m	不整形円形	?×?cm			-21
11	SK-21	38.0m	長円形?	?×110cm	暗茶褐色シルト	検出第28の55・56	+19、+20
11	SP-22	39.0m	円形	27×25cm		検出第28の57・58	
11	SP-23	39~40m	不明	?×?cm	明褐色シルト	検出第28の59・60	-23
11	SK-24	43.0m	不整形円形	?×80cm	暗茶褐色シルト	検出第28の61	+25
11	SK-25	44.0m	溝状	?×52cm			-24、-27
11	SK-26	45.2m	隅丸方形	30×?cm			
11	SK-27	44.3m	隅丸方形?	?×35cm			+25
11	SK-28	44.8m	不整形	?×30cm		検出第28の62~64	?30+31
11	SP-29	45.0m	長円形	36×20cm			?28+31
11	SP-30	45.0m	長円形?	50×?cm			28
11	SK-31	45.5m	円形	?×80cm			-28-28-30
11	SP-32	46.0m	円形	30×25cm			
11	SK-33	46.3m	長円形	?×34cm			
11	SK-34	46.5m	長円形?	80×?cm		検出第28の65・66	
11	SK-35	47.0m	隅丸長方形	84×?cm			
11	SK-36	47.7m	不整形円形	42×37cm	暗茶褐色シルト		
11	SP-37	48.6m	円形	30×27cm		検出第28の67・68	
11	SK-38	49.3m	隅丸長方形	58×38cm			
11	SP-39	50.6m	隅丸長方形	30×25cm		検出第28の69	
11	SP-40	51.3m	円形	27×25cm			
11	SK-41	53.2m	長円形	52×36cm			
12	SK-42	55.3m	長円形	?×?cm		検出第28の70・71	-43
12	SK-43	55.4m	不整形円形	60×50cm			+42
12	SK-44	56.0m	不整形長円形	?×46cm		検出第28の72・73	+46

挿入	遺構番号	位置	平面形	規模	埋土	出土土器	割合
12	SK-45	56.1m	円形	35×?cm	灰黒色シルト		
12	SK-46	57.0m	溝状	?×60cm	灰黒色シルト		-44
12	SK-47	57.5m	不整形	48×35cm			
12	SP-48	58.0m	不整形	26×20cm		挿入第28の74-75	
12	SP-49	58.2m	隅丸方形	29×25cm			
12	SK-50	55.3m	不整形	?×?cm			?A・B
12	SB-51	58~60m	?	?×?cm	暗黄褐色シルト	挿入第28の76~29の100	-50.-52.-53
12	SP-52	59.5m	隅丸長方形	74×?cm	黄褐色・暗黄褐色シルト		+51
12	SK-53	61.0m	不整形	100×?cm他	灰・明灰色シルト他	挿入第29の101~30の105	B-A・C
12	SK-54	62.5m	不整形	107×70cm	暗灰黒色シルト	挿入第30の106~113	
12	SK-55	65.5m	不整形	?×?cm	灰黒色・明灰黒色シルト	挿入第30の114~120	A-B
12	SK-56	67.5m	隅丸長方形	197×59cm		挿入第30の121	+57
12	SK-57	67.8m	長円形?	?×?cm	暗灰黒色シルト	挿入第30の122~128	-56
	SK-58	欠番					
12	SK-59	63.5m	不整形	48×28cm		挿入第30の129-130	
	SK-60	欠番					
12	SK-61	70.2m	不整形	60×46cm			
12	SB-62	71.5m	隅丸方形	?×?cm			-63
12	SK-63	71.7m	隅丸長方形	?×65cm	明灰色シルト	挿入第30の131~134	+62+67
12	SK-64	72.8m	不整形	33×30cm			+65
12	SK-65	73.0m	隅丸方形	60×46cm			+67-64-66
12	SK-66	73.3m	不整形	42×35cm			+65+67
12	SB-67	73.0m	隅丸方形	?×?cm	炭・茶褐色シルト	挿入第31の135~150	-63-65-66
13	SP-68	75.5m	長円形	36×?cm			
13	SK-69	76.1m	円形	70×?cm		挿入第31の151~32の186	
13	SK-70	76.7m	長円形	46×34cm			
13	SK-71	77.3m	長円形	44×?cm			
13	SD-72	80~83m	大溝?	?×400cm	黒色土・暗紫色土質シルト		
13	SK-73	84.6m	長円形?	98×?cm	暗茶褐色シルト	挿入第32の187	-74
13	SK-74	75.6m	円形他	60×51cm			+73
13	SB-75	76.5m	?	?×?cm	暗茶褐色シルト	挿入第33の188~195	-攪乱
13	SK-76	89~91m	隅丸方形?	242×?cm	明灰色シルト・灰他	挿入第33の196~200	-77-78
13	SK-77	90.0m	長円形?	50×?cm			+76
13	SK-78	92.0m	長円形他	?×58cm	明茶褐色シルト他	挿入第33の201~34の206	+76・B+A
13	SK-79	93.5m	?	?×140cm	灰・茶褐色シルト他	挿入第34の207~213,39/343~345	-80
13	SK-80	93.8m	長円形	60×50cm		挿入第34の214	+79
14	SP-81	94.6m	円形	20×20cm			+79
14	SK-82	95.7m	長円形	?×95cm	灰黒色・明灰色シルト	挿入第34の215~35の226	+83A
14	SK-83	97.0m	長円形?	?×?cm	暗灰色・明茶褐色シルト他	挿入第35の227-228	+B・-82A
14	SK-84	99.0m	長円形?	153×?cm		挿入第35の229-230	
14	SK-85	100.5m	円形他	57×?cm他	明茶褐色・暗茶褐色シルト		
14	SK-86	103.0m	隅丸方形他	80×?cm他	明茶褐色・暗茶褐色シルト他	挿入第36の231	-B・-C
14	SK-87	103.4m	長円形	48×29cm		挿入第36の232	+26C
14	SK-88	104.0m	長円形他	?×38cm			-B
14	SP-89	105.0m	長円形?	?×?cm	暗茶褐色シルト		

採回	遺構番号	位 置	平面形	規 模	埋 土	出 土 土 器	切 合
14	SK-90	106.0m	長円形	98×?cm		埴田第35の233~36の241	+92,-91
14	SK-91	106.3m	円形	35×35cm			+90
14	SK-92	106.7m	隅丸方形?	?×?cm			-90-93
14	SK-93	107.5m	不整円形?	?×?cm		埴田第36の242~247	+92,-95
14	SK-94	108.0m	?	?×?cm	灰黒色・明紫色シルト		
14	SK-95	109.0m	長円形?	?×?cm	灰・貝層他	埴田第36の248~257	+93
14	SK-96	110.6m	円形	49×45cm			+97
14	SK-97	110.9m	?	?×?cm		埴田第36の258~260	-96
14	SK-98	112.0m	?	?×?cm	明茶褐色シルト他	埴田第36の261~37の283	+96
14	SK-99	115.0m	不整円形	?×144cm	暗茶褐色シルト		
15	SK-100	118.5m	長円形?	?×135cm	暗茶褐色シルト他		?101
15	SP-101	119.8m	円形	28×23cm			+102
15	SB-102	125.0m	隅丸方形?	?×?cm	明紫色シルト	埴田第37の284~288	-101-103
15	SK-103	121.6m	円形	40×37cm		埴田第37の289	+102
15	SB-104	122.0m	?	?×?cm	暗紫色シルト		-103-105
15	SK-105	122.7m	不整円形	55×39cm			+104
15	SK-106	123.5m	不整円形	?×30cm	暗茶褐色シルト他		-B
15	SP-107	124.9m	円形他	24×23cm			
15	SK-108	125.5m	長円形?	?×?cm	暗灰黒色シルト他	埴田第37の290~38の295	-B
15	SK-109	126.0m	隅丸方形他	160×?cm	明灰黒色シルト	埴田第37の296~298	-108,-110
15	SK-110	126.1m	不整形	?×54cm			+109,-111
15	SP-111	125.9m	長円形?	?×22cm			+109-110
15	SK-112	127.2m	隅丸方形	54×43cm		埴田第38の299	
15	SP-113	127.0m	不整円形?	?×25cm			+114
15	SK-114	127.5m	長円形?	?×54cm		埴田第38の300~306	-113
15	SK-115	128.0m	長円形	48×35cm			+116
15	SK-116	129.7m	長円形?	54×43cm	灰茶褐色シルト	埴田第38の307~309	-117-118
15	SP-117	129.1m	長円形	34×23cm		埴田第38の310	+116
15	SP-118	130.9m	長円形	34×26cm			+116
15	SP-119	131.3m	長円形	35×29cm			
15	SK-120	131.3m	不整円形	?×46cm		埴田第38の311	
15	SK-121	132.0m	長円形	48×35cm		埴田第38の312-313	
15	SK-122	132.6m	?	?×?cm		埴田第38の314-315	-123-124
15	SK-123	132.8m	不整円形	45×40cm			+122-124
15	SK-124	133.5m	長円形?	?×103cm	灰黒色シルト他	埴田第39の316	+22,-123
16	SP-125	134.6m	不整円形	22×18cm			
16	SK-126	135.1m	不整円形	42×35cm			
16	SP-127	135.6m	円形	25×25cm			+128
16	SK-128	135.7m	不整円形	76×62cm		埴田第39の317-318	-127
16	SK-129	137.2m	不整円形	131×35cm	灰黒色・明紫色シルト	埴田第39の319~329	
16	SK-130	138.4m	不整円形	?×40cm			
16	SK-131	138.8m	不整円形	76×?cm	焼土・暗茶褐色シルト	埴田第39の330-331	
16	SK-132	140.1m	長円形?	?×60cm	暗灰黒色シルト他		+133
16	SD-133	144~144m	溝	?×40cm			-132-136
16	SK-134	141.1m	長円形?	?×?cm			

坪図	遺構番号	位置	平面形	規模	埋土	出土土器	割合
16	SD-135	142.5m	溝状	?×20cm	明茶褐色シルト		-138
16	SK-136	143.0m	円形?	?×?cm			+133-137
16	SP-137	143.2m	円形	25×22cm			+133・+136
16	SK-138	143.5m	不整形円形	44×38cm			+135
16	SK-139	144.9m	長円形?	?×60cm			+133
16	SK-140	145.2m	長円形?	?×48cm	明紫色シルト		
16	SK-141	146.0m	長円形?	?×?cm	緑灰色シルト	坪図第39の332	
16	SK-142	146.2m	長円形?	?×36cm			
16	SD-143	150.6m	溝?	?×?cm	青色砂質シルト		
16	SP-144	147.0m	長円形?	28×?cm	明紫色シルト		
16	SP-145	148.4m	円形	25×20cm			
16	SK-146	148.3m	長方形?	36×?cm	暗紫色シルト		
16	SP-147	144.9m	方形?	?×50cm	明灰色シルト		
16	SK-148	149.7m	隅丸方形?	36×28cm			+149
16	SD-149	153.0m	?	?×?cm	黒褐色砂質シルト	坪図第39の333-336	
16	SB-150	140-142m	隅丸方形?	?×?cm	黒褐色シルト	坪図第39の337	-149
7	SP-151	-4.5m	円形	11×10cm			
14	SK-152	-2.0m	不整形円形	34×28cm			
14	SK-153	-2.3m	?	?			
7	SK-134	-2.4m	?	?			
7	SP-155	-3.2m	円形	14×13cm			
7	SP-156	-3.5m	円形	16×14cm			
7	SP-157	-3.5m	円形	12×11cm			
7	SD-158	-5-7m	溝状	?	青灰色シルト他		
9	SP-1群	40m付近	円形	15個で構成			
9	SP-2群	42m付近	円形	6個で構成			
9	SP-3群	53m付近	円形	10個で構成			
10	SP-4群	55m付近	円形	13個で構成			
10	SP-5群	69m付近	円形	12個で構成			

打製石鏃(4)が出土した。

(3) 溝

SD-72 79.5m~83.5mに存在した溝状遺構である。上縁の幅が5m前後、底幅1m余り、深さ50cm程の浅い溝である。

SD-133 131m~144.5mに存在した細長い溝状遺構である。一端をSK-132、途中をSK-136に切られている。幅が20cm余で長さが6m程である。

SD-135 141.2m~143.5mに存在した幅10cm前後の細い溝状遺構である。一端をSK-138に切られており、一部は南壁中に伸びている。

SD-143 150.5m~154m地点に存在した溝状遺構である。埋土を覆っていた暗紫色シルトを剥いだ途端に激しい湧水に見舞われて掘り進めることができなかった。底部の形状を明らかにできなかったが、青色砂層で埋められた溝状遺構と推測された。

SD-158 トレンチ拡張区の西端、+5m～7mに出現した漆状遺構である。深さ1m近くまで掘り下げたが、幅や漆底等を明らかにすることは出来なかった。

(4) 柱穴群

SP-1群 40m付近に存在する直径が7cm～15cm、深さ10cm未満の柱穴状小土壌が15ほどの集まりである。両側の壁下に分布が伸びているようである。

SP-2群 42m～43m間に存在する。直径が8cm～12cm、深さ7cm未満の柱穴状小土壌6の集まりである。

SP-3群 53m～54m間に存在する。直径が8cm～13cm、深さ15cm未満の柱穴状小土壌10の集まりである。両側の側壁の下にも伸びているようである。

SP-4群 54m～56m間に存在する。直径が8cm～20cm、深さ25cm未満の柱穴状小土壌12の集まりである。両側の側壁の下にも伸びているようである。SP-C群と同一の遺構とすれば、54m付近の空間を回る二重の杭列が推測されよう。

SP-5群 (図版第10の2) 69m付近の径50cm前後の小空間を取り巻く杭列で、一部は二重になっている。直径が10cm前後、深さが8～17cmで、北側側壁下に伸びている。

4、包含層

遺構以外の生活面からも遺物が出土している。図版第17の1は高坏の出土状態、図版第19の1・2は129m付近における石鑑(5)の出土状態である。

トレンチの東端部160m～165m付近のⅪ層下面是汀線近くの水底であったようで、曲物(図版第15の2)や木材(図版第16の1・2)などが木の葉と共に沈んだ状態で出土した。時期を示す遺物は伴出していないが、層序から古代以降と推測される。

第2節 第2トレンチの層序と遺構

1、第2トレンチの位置(挿図第6、図版第2の2)

旧東海道(県道白鳥・豊橋線)に架かる鹿菅橋から上流の江川左岸の堤防における下水管設置予定地である。第1次調査区は鹿菅橋南詰から上流約24m～38mの堤防中央部に位置しており、規模は長さ14m、幅1mである。断面図は調査区の北壁で作成した。第2次調査区は鹿菅橋南詰の第1グリッドと上流側の1次調査区間の堤防中央部で、長さ21m、幅1mである。断面図は調査区の南壁で作成した。

2、層序

(1) 第1次調査区の層序(挿図第16)

A、基本層序

トレンチの最上層はⅠ層で、20cm前後の厚さをもつ江川築堤に際しての盛り土である。Ⅱ層は明灰色シルト層で、調査区全体を1m前後の厚さで覆っている。Ⅲ層は暗茶褐色シルト層で、20cm前後の

表第3 第2トレンチ(1次)遺構一覧表

検出	遺構番号	位置	平面形	規格	埋土	出土土器	割合
18	SK2a-1	0.5m	円形	54×48cm		埴間第53の1~3	+8
18	SD2a-2	5.3m	溝	7×72cm		埴間第53の4~15	-3
18	SD2a-3	6~12m	溝	7×7cm		埴間第53の16~21	-6
18	SK2a-4	0.81m	長円形	56×40cm		埴間第53の22~24	-3
18	SK2a-5	1.27m	長円形?	7×88cm		埴間第53の25・26	-3
18	SK2a-6	1.15m	円形	42×40cm			-3
18	SK2a-7	0.53m	長円形	36×28cm			+2
18	SB2a-8	2.00m	?	7×7cm			-1
18	SP2a-1	1.00m	円形	10×10cm, D6cm			
18	SP2a-2	1.35m	円形	10×9cm, D9cm			
18	SP2a-3	1.45m	円形	11×12cm, D9cm			
18	SP2a-4	1.70m	円形	7×7cm, D9cm			
18	SP2a-5	1.65m	円形	6×7cm, D7cm			
18	SP2a-6	1.15m	円形	15×17cm, D19cm			
18	SP2a-7	1.85m	円形	6×6cm, D9cm			
18	SP2a-8	2.00m	円形	7×7cm, D7cm			
18	SP2a-9	1.15m	円形	6×7cm, D10cm			
18	SP2a-10	2.15m	円形	7×8cm, D7cm			
18	SP2a-11	2.35m	円形	6×6cm, D9cm			
18	SP2a-12	2.50m	円形	7×8cm, D10cm			
18	SP2a-13	2.67m	円形	5×6cm, D6cm			
18	SP2a-14	2.63m	円形	11×12cm, D18cm			
18	SP2a-15	2.81m	円形	7×8cm, D8cm			
18	SP2a-16	2.85m	円形	6×7cm, D4cm			
18	SP2a-17	3.00m	円形	7×7cm, D6cm			
18	SP2a-18	2.97m	円形	8×8cm, D7cm			
18	SP2a-19	3.00m	円形	6×6cm, D9cm			
18	SP2a-20	2.96m	円形	7×7cm, D8cm			
18	SP2a-21	3.58m	円形	7×7cm, D9cm			
18	SP2a-22	4.60m	長円形	8×12cm, D9cm			
18	SP2a-23	4.68m	円形	7×7cm, D10cm			
18	SP2a-24	4.65m	円形	8×9cm, D14cm			
18	SP2a-25	4.90m	円形	7×7cm, D11cm			
18	SP2a-26	6.45m	円形	8×8cm, D8cm			
18	SP2a-27	6.70m	円形	9×9cm, D6cm			
18	SP2a-28	8.05m	円形	10×12cm, D15cm			

厚さで調査区全面に広がっている。Ⅳ層は黒褐色シルト層で、10cm前後の厚さで調査区全体に広がっている。Ⅴ層は暗灰色シルト層で、調査区の東半部に広がっており、基盤であるⅥ層に掘り込まれたSD2a-3を覆っている。

B、遺構の埋土

①は灰黒色シルトで、SK2a-5・SD2a-2の埋土である。②は暗茶褐色シルトで、SK2

表第4 第2トレンチ(2次)遺構一覧表

挿図	遺構番号	位 置	平面形	規 格	埋 土	出 土 土 器	切 合
19	SK2b-1	0m	?	?×?cm			+3,-2
19	SK2b-2	0.8m	長円形?	78×?cm			+1,-3
19	SK2b-3	0.5m	?	?×?cm			-1,-2
19	SK2b-4	1.5m	?	?×65cm			SD1
19	SK2b-5	3.0m	長円形?	?×60cm		押図第54の35	+22,-SD1
19	SK2b-6	5.0m	長円形?	?×34cm			+SD2
19	SK2b-7	5.2m	長円形?	?×?cm		押図第54の36・37	+SD2・8
19	SK2b-8	5.7m	長円形	33×23cm			-7
19	SK2b-9	5~7m	長円形?	?×?cm		押図第54の38	+7・8
19	SK2b-10	7.5m	不整形円形	63×25cm			
19	SK2b-11	8.5m	長円形	63×25cm			
19	SK2b-12	8.7m	長円形	45×30cm			
19	SK2b-13	9.0m	不整形長円形	47×?cm		押図第54の39	-14
19	SK2b-14	9.3m	不整形長円形	45×?cm		押図第54の40・41	+13
19	SK2b-15	9.4m	?	?×?cm		押図第54の42・43	-16
19	SK2b-16	10.0m	不整形	?×90cm		押図第54の44・45	+15・17
19	SK2b-17	10.3m	?	?×50cm			-16
19	SK2b-18	11.0m	隅丸長方形	65×47cm			
19	SK2b-19	11.1m	隅丸方形?	?×50cm			
19	SK2b-20	12.1m	円形	57×55cm		押図第54の46	
19	SK2b-21	14.1m	長円形?	83×?cm			
19	SB2b-22	2~4m	隅丸方形?	243×?cm		押図第54の47~50	-5・23
19	SD2b-1	1~5m		65×47cm		押図第54の51~55の53	
19	SD2b-2	5~6m		?×50cm			
19	SD2b-3	11.1m		57×55cm			
19	SP2b-1	3.0m	円形	12×19cm			+5
19	SP2b-2	4.5m	長円形?	?×25cm			-SD-2
19	SP2b-3	4.9m	長円形?	24×19cm			-6
19	SP2b-4	5.2m	円形	15×15cm			-5
19	SP2b-5	5.3m	円形	21×18cm			-5
19	SP2b-6	5.8m	円形	16×14cm			
19	SP2b-7	5.8m	円形	16×12cm			+8
19	SP2b-8	5.9m	円形	17×16cm			-SD2
19	SP2b-9	7.8m	不整形円形	24×19cm			
19	SP2b-10	7.7m	円形	12×11cm			
19	SP2b-11	8.1m	円形	16×15cm			
19	SP2b-12	8.9m	円形?	?×17cm			
19	SP2b-13	9.2m	円形	12×12cm			?15
19	SP2b-14	10.m	不整形円形	?×?cm			-16
19	SP2b-15	9.8m	長円形	40×28cm			+10.SP16
19	SP2b-16	9.9m	不整形円形	?×18cm			-15
19	SP2b-17	9.9m	長円形	21×15cm			?15
19	SP2b-18	12.7m	円形	27×26cm			
19	SP2b-19	14.3m	円形	27×26cm			

採回	遺構番号	位置	平面形	規格	埋土	出土土器	切合
19	SP2b-20	16.0m	円形	13×12cm			+SD-3
19	SP2b-21	17.0m	円形	21×18cm			
19	SP2b-22	9.9m	円形	15×13cm			
19	SP2b-23	9.9m	長円形	21×15cm			
19	SP2b-24	18.4m	長円形	?×20cm			
19	SP2b-25	20.1m	円形	22×21cm			
19	SP2b-26	24.0m	円形	33×?cm			

a-2の埋土である。③は暗灰褐色シルトで、SD2a-3の埋土である。

(2) 第2次調査区の層序(採回第17)

A、基本層序

I層は砂礫層・II層は赤褐色土層・III層は灰色シルト層・IV層は青褐色シルト層・V層は灰色シルト層・VI層は赤褐色土層で、I～VI層は第1調査区と同様に築堤に際しての盛り土である。II層は赤褐色土層でI層と同じ盛り土である。VII層は明灰色シルト層で、トレンチの西端を除くほぼ全面を覆っている。VIII層は黒褐色シルト層で、トレンチの全面を完全に覆っている。IX層は明黒褐色シルト層で、トレンチの西端分のみ存在する。X層・XI層は明灰黒色シルト層で、1m付近と8m付近に存在する。XII層は黒色シルト層で、基盤に掘り込まれた遺構群を覆っている。

B、遺構の埋土

①は黒色シルトで、SD2b-2・SK2b-19等の埋土である。②は灰黒色シルトで、SK2b-7・SK2b-15・SK2b-16等の埋土である。③は茶褐色シルトで、SB2b-21・SD2b-9などの埋土である。④は暗褐色シルトである。⑤は明灰黒色シルトで、SD2-1の埋土である。⑥は黄色シルト・⑦は灰色シルトで、共にSD2b-9の埋土である。

3、遺構(表第3・第4)

(1) 堅穴住居址

SB2a-8 トレンチの東端に存在した。壁と床の一部が確認されたのみで形状は不明である。埋土にSK2a-1が掘り込まれている。

SB2b-22 2m～4mの南壁にかかって存在し、一部がSD2b-1の下に重なっている。最大幅を示すセクション面で幅240cmを計る。床面には多量の炭化物が分布していた。柱穴等は明らかでない。

(1) 土塋(図版第20・21)

第1次調査区にはSK2a-1・SK2a-4～SK2a-7が存在した。トレンチ東端のSK2a-5は両側壁下に伸びているため長径が不明で、溝である可能性も残されている。他は径が30cm前後の円形の平面形をもつ小土塋である。SK2a-4・SK2a-6はSD2a-3を、SK2a-7はSD2a-2を切っている。

第2次調査区にはSK2b-1～SK2b-21が存在した。大型土塋はSK2b-1とSK2b

－9で、何れも規模や平面形は明らかでない。中型土壌はSK2b-7・SK2b-15・SK2b-16・SK2b-21などで径が1m前後の規模をもつもの、小型土壌は径が50cm前後の規模をもつSK2b-18～SK2b-20などである。これらのうちSK2b-1はSK2b-3を切り、SK2b-2に切られている。SK2b-16はSK2b-15を切っている。SK2b-14はSK2b-13を切っている。

(2) 溝

SD2a-2 (図版第20の1) トレンチの5～6m部分を横断している。幅80cm、深さ20cmほどの浅い溝である。埋土は灰黒色土である。

SD2a-3 トレンチの7mあたりの北壁から13mに向かって伸びている溝である。幅60cm前後で深さが20cmほどで、西端がSKa-5と切り合い関係にあるが、前後は不明である。埋土中から無柄の磨製石鏃が出土した (図版第22の2)。

SD2b-1 トレンチの東端から5mに向かって斜めに伸びている溝である。幅が1m前後で深さが30cmほどで、SB2b-21・SK2b-3・SK2b-4・SK2b-5を切っている。

SD2b-2 トレンチの5m～6m部分を斜めに横断している。幅が60cm前後、深さ30cmほどの細い溝で、SK2b-6・SK2b-7に切られている。

SD2b-3 トレンチの16m～17mを横断している溝で、幅が2.2m前後、深さ60cmほどの大きなものである。

(3) 柱穴状小土壌

26検出されたが、トレンチの幅が1mということで他の遺構との組合せなどは明らかでない。

第3節 第3トレンチの層序と遺構

1、第3トレンチの位置 (挿図第6、図版第3の2)

鹿管橋の北詰から江川右岸の堤防を上流に向かって遡った12m地点から31m地点間の下水管設置予定地である。トレンチは堤防中央部に設定し、幅は1m、長さ19mである。断面図は北壁で作成した。後になってトレンチの西端と2次調査で発掘した第3グリッドとの間にも調査の指示があり、長さ7m、幅1mの拡張区を設けた。

2、層序 (挿図第18・第19)

(1) 基本層序

最上層のⅠ層黄褐色土層とⅡ層の茶褐色土層は堤防造成時の盛り土である。Ⅲ層の明灰色シルト層・Ⅳ層の明褐色シルト層の両層は重なるようにしてトレンチの西半部0m～12m地点にかけて存在している。両層の間に小さなⅣ層の淡明灰色土層・Ⅴ層の灰黒色土層・Ⅵ層の淡灰褐色土層が狭に挟み込まれている。Ⅶ層は淡灰褐色土層で、4m地点に存在する小層である。Ⅷ層は灰色シルト層で、トレンチのほぼ全面を覆っている。Ⅸ層は灰褐色シルト層で、やはりトレンチの全面を覆っており、東端部で

表第5 第3トレンチ遺構一覧表

押回	遺構番号	位置	平面形	規格	埋土	出土土器	切合
20	SK3-1	0.8m	長円形?	?×28cm	暗灰色シルト		
20	SK3-2	0.7m	長円形?	?×72cm	黒灰色砂		
21	SK3-3	12.7m	長円形	25×18cm	黒色砂	押回第58の1~3	
20	SP3-4	11.45m	長円形	22×18cm	暗灰色土	押回第58の4	
20	SP3-5	8.85m	円形	27×24cm	暗灰色土	押回第58の5~9	
20	SP3-6	8.4m	円形	32×25cm	暗灰色シルト		
20	SK3-7	15.3m	長円形?	?×?cm	?		
18	SP3-8	7.3m	円形	34×32cm	?		
18	SK3-9	29.2m	長円形?	63×52cm	黄褐色土	押回第58の10・11	
18	SK3-10	20.4m	円形?	45×?cm	暗褐色シルト	押回第58の12~14	
18	SK3-11	17.8m	長円形?	?×75cm	黒褐色砂層	押回第58の15~59の18	
18	SK3-12	17.0m	不整円形?	?×74cm	?		
18	SK3-13	26.2m	長円形?	?×48cm	?	押回第58の19・20	
18	SK3-14	4.2m	円形?	?×70cm	?	押回第58の21~23	
18	SK3-15	3.3m	不整円形?	?×60cm	暗灰色土	押回第58の24	
18	SK3-16	30.1m	長円形?	106×?cm	暗灰色砂		
18	SK3-17	30.2m	横丸長方形	113×60cm		押回第58の25~32	+19・18
18	SK3-18	30.1m	?	?×?cm			-17
20	拡SK3-1	+5.0m		?×72cm		押回第58の33~45	
21	SP3-1	4.9m	円形	24×23cm			
21	SP3-2	5.9m	円形?	?×14cm			
18	SP3-7	8.0m	円形	13×12cm			
18	SP3-9	7.5m	円形	18×17cm			
18	SP3-10	7.3m	円形	20×17cm			
18	SP3-11	7.0m	円形	35×30cm			
18	SP3-12	7.5m	長円形	20×17cm			
18	SP3-13	7.0m	円形?	?×20cm			
18	SP3-14	6.4m	円形?	?×25cm			
18	SP3-15	6.1m	長円形	15×13cm			
18	SP3-16	5.6m	円形	10×10cm			
18	SP3-17	5.5m	円形	17×16cm			
18	SP3-18	5.4m	円形	24×22cm			
18	SP3-19	5.2m	円形	12×10cm			
18	SP3-20	5.0m	長円形	18×14cm			
18	SP3-21	4.8m	円形	18×18cm			
18	SP3-22	4.9m	円形?	?×25cm			
18	SP3-23	5.1m	長円形?	?×18cm			
18	SP3-24	4.3m	長円形	28×23cm			
18	SP3-25	3.7m	不整円形	15×15cm			
18	SP3-26	3.4cm	長円形	26×22cm			
18	拡SP3-1	+1.1m	円形	14×11cm			
18	拡SP3-2	+1.7cm	長円形	22×16cm			

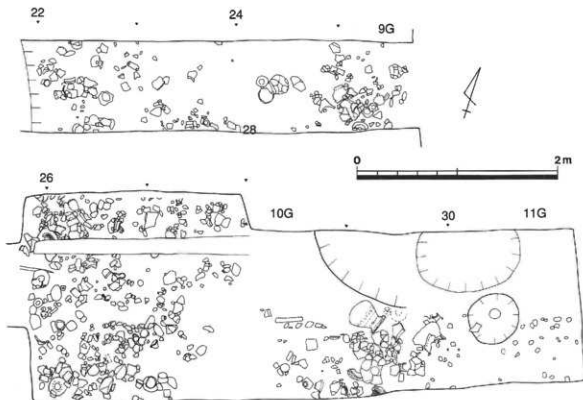
は80cm前後の厚さをもつ。Ⅺ層は明灰黒色土層、Ⅻ層は淡灰褐色シルト層、ⅩⅢ層は淡灰褐色シルト層、ⅩⅣ層は暗灰褐色シルト層で、15m～22m地点に重なって存在する小層である。ⅩⅤ層は暗灰色シルト層で、トレンチの西半部に存在する。ⅩⅥ層は灰黒色シルト層で、トレンチ西端部における最下層である。ⅩⅦ層は黄灰色シルト層で、20m～30m地点に存在する。ⅩⅧ層は淡灰色シルト層・ⅩⅨ層は明灰色シルト層・ⅩⅩ層は暗灰色砂層で、トレンチの東端部に重なって存在する小層である。ⅩⅪ層は灰色シルト層で20m～29m地点に存在し、トレンチ東半部の最下層をなしている。

(2) 西拡張区の基本層序

トレンチとの間に隔壁を残したため別の層名を付した。Ⅰ層は茶褐色シルト層で、トレンチのⅡ層に相当するであろう。Ⅱ層は明灰色土層で、トレンチのⅢ層に相当するであろう。Ⅲ層は灰色シルト層で、トレンチのⅣ層に当たるであろう。Ⅳ層は明灰褐色シルト層・Ⅴ層は灰白色シルト層・Ⅵ層は明灰褐色シルト層・Ⅶ層は明灰色シルト層・Ⅷ層は褐色シルト層で、いずれも区の西端部に重なって存在する層である。Ⅸ層は灰褐色シルト層で、トレンチのⅩ層に相当するであろう。Ⅺ層は暗灰色土層で、トレンチのⅩⅥ層に相当しよう。

(3) 遺構の埋土

遺構毎に状態は異なるが①暗灰色シルト・②黒褐色シルト・③黒褐色砂・④黒色砂・⑤暗褐色シルト・⑥暗灰色砂・⑦黒色シルト等である。



挿図第7 第3トレンチ東半部における土器の出土状態

3、遺構（表第5）

（1）土壌（図版第23・24）

第3トレンチでは19の土壌が検出された。拡張区西端部に存在するSK3-1は規模が明らかでないが大型である。SK3-11・SK3-12・SK3-16～SK3-18などは径1m前後の中型土壌、SK3-9・SK3-13～SK3-15などは径50cm前後の小型土壌である。

このうちSK3-16は断面図で明かなように現代のものである。SK3-9（図版第28の1）は小型土壌であるが、完形の壺（3-35）と高坏（3-11）が埋納されていた。SK3-17の底には大型壺の口頸部（3-29）が台のように口縁部を上にして置かれていた。SK3-1は深さ20cm前後の皿状を呈する遺構である。形状から土壌としたが、堅穴式住居址または溝状遺構である可能性も捨てきれない。

（2）溝（図版第28の1）

トレンチ東端に存在するSD3-1は埋土が黒色の軟質粘土である。台付き甕や木材が出土（図版第28の2）した。一応溝として扱ったが、沼もしくは河川流路の水辺である可能性もある。

（3）柱穴状小土壌

トレンチ内で28検出された。ほとんどは他の遺構との関係が明らかでないが、SK3-14・3-15付近のSP3-21～SP3-26は（図版第23の1）円を描いて連なっているように看取りされる。

（4）土器溜まり（挿図第19、図版第25～27）

9区～10区では一面に土器片が濃密に散布していた。その大部分が上層第3様式で、器種も多様で接合可能なものが多く含まれている。旧地籍図（挿図第97）では島畑であったこの地点の北側に水田が入り込んでおり、SD3-1の状態を考え合わせると水辺の祭祀に関連する遺構と推測することもできよう。

第4節 第1グリッドの層序と遺構

1、第1グリッドの位置（挿図第6、図版第2の2、図版第29の1）

旧東海道鹿茸橋南詰の上流側に接して位置している。下水道幹線はシールド工法で施工されるため路線の発掘調査は行われなかったが、鹿茸橋を迂回するためには4箇所にマンホールが必要であった。幹線の江川通過と、江川右岸に設置される下水道支線を合流させるために設けられるマンホール設置予定地がこのグリッドである。グリッドの規模は2m×4mで、支線より埋設位置が深いため、支保工には鋼鉄製の矢板と梁が用いられた。

2、層序

（1）基本層序

上部は重機によって排土したために上層の状態は不明で、地表レベルはグリッド外側の計測である。遺構を覆うⅠ層は灰黄色シルト層である。遺構の基盤をなしているⅡ層は黄灰色砂質シルト層、Ⅲ層

表第6 第1グリッド遺構一覧表

(位置はA・D点からの距離)

挿図	遺構番号	位置	平面形	規格	埋土	出土土器	切合
21	SK1G-1	3.1×2.1m	長円形?	84×70cm		埴田第54の1・2	+7
21	SK1G-2	3.1×2.7m	長円形?	37×35cm		埴田第54の3	
21	SP1G-3	1.0×3.8m	長円形	32×24cm		埴田第54の4	
21	SP1G-4	2.2×3.3m	長円形	27×23cm			
21	SB1G-5	2.0×4.5m	円形	7×7cm	灰黒色シルト	埴田第54の5	
21	SP1G-6	2.3×4.5m	円形	25×18cm			
21	SD1G-7	3.7×1.0m	長円形	7×7cm	茶褐色シルト	埴田第54の6～10	

は青灰色シルト層、IVは青灰色砂層である。

(2) 遺構の埋土

①層は黒色シルト、②層は灰色シルト、③灰黒色シルトである。

3、遺構(挿図第22、表第6)

(1) 土壌・柱穴状小ピット

SK1G-1 (図版第30の1) SD1G-7の縁辺を切って掘削された土壌で、平面形が不整形を呈している。

SK1G-2 SK1G-7の縁辺に存在する。平面形が円形で径が18cm×20cmと小規模である。

SP1G-3・SP1G-4・SP1G-6 柱穴状小ピットである。SP1G-6はSB-5に付属する柱穴であろう。

(2) 竪穴式住居址(図版第30の2)

SB1G-5 グリッドの北隅に存在する。遺構の平面形は明らかでないが、形状と柱穴状ピットを備えている点から住居址である可能性が認められよう。

(3) 溝

SD1G-7 (図版第29の2) グリッドの南端部を横切る幅110cm～180cmほどの浅い溝である。溝内には石や土器片が敷き詰められたように分布していた。

第5節 第2グリッドの層序と遺構

1、第2グリッドの位置(挿図第6、図版第3の1)

鹿骨橋南詰のセンターライン西側に設けたグリッドである。下水道幹線を第1グリッドに設置されるマンホールに向けて屈折させるためのマンホールの設置予定地である。グリッドの規模は2m×4mであり、第1グリッドと同様に鋼鉄製の支保工を用いた。

2、層序

表第7 第2グリッド遺構一覧表

(位置はA・D点からの距離)

挿図	遺構番号	位置	平面形	規格	遺土	出土土器	割合
21	SB2G-1	A隅	長円形?	?×?cm	暗褐色シルト	挿図第77の1	+7
21	SK2G-2	B隅	長円形?	?×?cm	明紫色シルト	挿図第77の2・3	
21	SK2G-3	D隅	長円形	?×?cm	暗褐色シルト	挿図第77の4	
21	SK2G-4	A～D壁	長円形	140×?cm	暗褐色シルト	挿図第77の5～9	
21	SK2G-5	1.5×2m	円形	245×?cm	黒褐色粘土他	挿図第77の10～17	

(1) 基本層序 (図版第31の1)

上部は重機によって排土したため層序は明らかでない。遺構を覆っているのはⅠ層の灰褐色シルトである。遺構の基盤をなしているのはⅡ層の褐色シルト層・Ⅲ層の青灰色シルト層・Ⅳ層の青灰色砂層である。

(2) 遺構の埋土

遺構を埋めている土壌には①明褐色シルト・②明紫色シルト・③暗紫色粘土・④茶褐色粘土・⑤国褐色粘土などがある。

3、遺構 (表第7)

(1) 竪穴式住居址

SB2G-1 (図版第31の2) グリッドの北西隅に存在するが、1隅しか検出されていない。柱穴を伴っている点から隅丸方形の竪穴式住居址としてよからう。

(2) 土壌

SK2G-2 (図版第31の2) グリッドの南西隅に存在する。北壁沿いに存在する土壌は一部分が現れているのみで形状は不明である。

SK2G-3 グリッドの北西隅に一部が現われている。SB2G-1の一部を切っている。

SK2G-4 グリッドの北壁沿いに一部が現われている。SK2G-3に一部が切られている。

SK2G-5 (図版第32) SB2G-1の下に重なるように存在した。SK2G-4に切られている。底部から柄状木製品が出土した。

第6節 第3グリッドの層序と遺構

1、第3グリッドの位置 (挿図第6、図版第3の2、図版第33)

鹿皆橋の北詰上流側に接して設けたグリッドである。江川右岸の堤防に設置される下水道支線の合流と、江川の下を通過してくる下水道幹線を受けて旧東海道へ戻すために屈折させるためのマンホール設置予定地である。グリッドの規模は4m×5mで、鋼鉄製の支保工が用いられた。

2、層序

(1) 基本層序

このグリッドにおける層序のうち、上部は重機による排土の際に壁を残さなかったため不明である。遺構を覆っていたのはⅠ層の黄褐色シルト層である。Ⅱ層は暗褐色シルト層、Ⅲ層は灰褐色シルト層、Ⅳ層は灰色砂層（有機土泥じり）、Ⅴ層は暗紫色シルト層、Ⅵ層は灰褐色砂層（小石泥じり）、Ⅶ層は暗灰色シルト層、Ⅷ層は遺構の基盤である灰褐色砂層である。

(2) 遺構の埋土

①は灰褐色シルト・②は暗灰色シルト・③は灰褐色砂質シルト・④は灰褐色砂である。

3、遺構（表第8）

(1) 土壌

SK3G-1（図版第36の1） グリッド西壁沿いに存在した。Ⅱ層に掘り込まれ、Ⅰ層に覆われている。平面形や規模は明らかでないが、深さは20cmほどで、壁に柱穴状小ピットが穿たれている。

SK3G-2 西壁沿いに存在し、Ⅱ層に掘り込まれている。一部がSK3G-1に切られているため平面形や規模は明らかでないが、径が1m前後と推定される。



挿図第8 第3グリッド溝5における土器の出土状態

表第8 第3グリッド遺構一覧表

(位置はA・D点からの距離)

挿図	遺構番号	位置	平面形	規格	埋土	出土土器	割合
21	SK3G-1	5.5×5.0cm	長円形?	7×7cm	暗灰色シルト	挿図78の1~4	+2・4~5
21	SK3G-2	5.0×5.1cm	長円形?	97×7cm	灰褐色シルト		-1・+4・5
21	SK3G-3	44×3.7cm	長円形	42×30cm		挿図78の5~14	+SD1
21	SD3G-4	A-BⅧ-8-CⅧ	不整形		黄褐色シルト	挿図78の15~80の35	
21	SD3G-5	A-BⅧ-8-CⅧ		幅110cm~	灰褐色シルト	挿図80の36~82の82	-1・2・3
21	SD3G-6	A-BⅧ-8-CⅧ		幅130cm~	暗紫色粘土	挿図82の83~83の105	-1・2

SK3G-3 SD3G-5の東壁に穿たれた径が20cmほどの平面形が不整形な小土壇である。

SK3G-4 SD3G-6の埋土上面に存在した細長い遺構で、埋没過程に生じた非人為的な窪みである可能性が高い。

(2) 溝

SD3G-5 (図版第34) Ⅲ層に掘り込まれた溝で、東壁からグリッドの南隅に向かって伸びている。幅は100cm~130cmほどで、深さは20cm前後である。溝中には土器片が敷き詰められたかのよう分布していた(挿図第23、図版第36の2、37の1・2)

SD3G-6 (図版第35) 基盤であるⅧ層に掘り込まれた溝で、グリッドの北壁から南隅に向かって伸びている。また西隅では分岐して西側の県道の下に向って伸びている。

第7節 第4グリッドの層序と遺構

1、第4グリッドの位置(挿図第6、図版第4の1)

鹿背橋北詰にあり、県道のセンターライン西側に位置している。鹿背橋の上流を迂回した下水道幹線を第3グリッドに設置されるマンホールから受けて、旧東海道に戻すためのマンホール設置予定地である。グリッドの規模は2.5m×2.8mで、鋼鉄製の支保工が用いられた。

2、層序

(1) 基本層序(図版第38の1)

この地点も上部は壁を残さずに排土したため不明である。調査した部分の基本層序はⅠ層が褐色シルト層、Ⅱ層が暗紫色粘土層、Ⅲ層が灰褐色砂層の3層である。Ⅰ層は遺構全体を覆う層である。Ⅱ層・Ⅲ層は遺構の基盤をなす層である。

(2) 遺構の埋土

①層は青黒色粘土・②層は暗灰色シルト・③層は黒褐色シルト・④層は黒褐色粘土・⑤層は暗紫色粘土である。①層と②層は北方の遺構外に伸びており、遺構を覆う層となる可能性をもつ。遺物は⑤層に包含されていた。

3、遺構（表第8）

（1）溝（図版第38の2）

溝SD4G-1は幅が上端で2m余り、下端で1m余、深さ70cmほどの規模を持つ大きな溝である。グリッドの東壁下と西壁下に伸びている。底部には木器・木材・燃え残りの薪などの木質遺物が充満していた。位置と規模からみて東方の第3グリッドの溝SD3G-6に接続する可能性が強い。

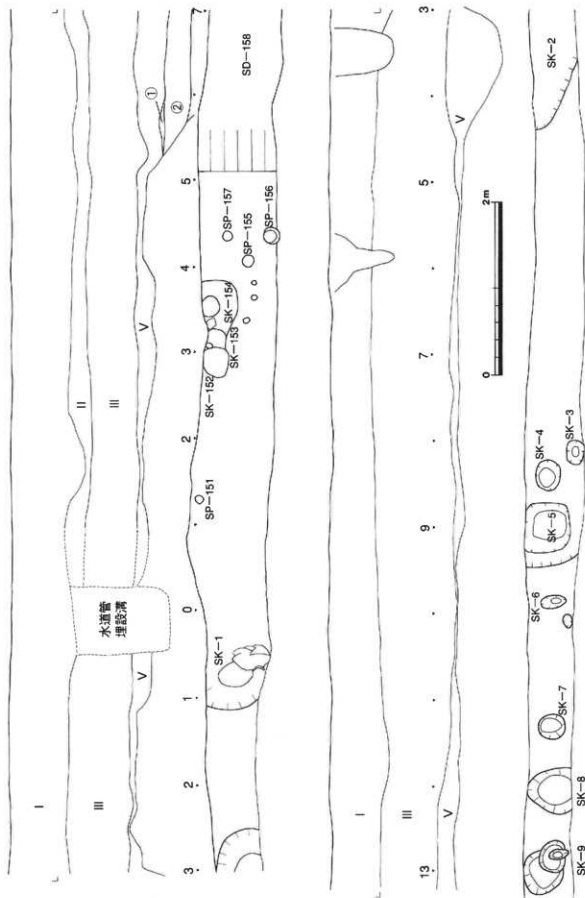
第8節 第5グリッドの層序と遺構

1、第5グリッドの位置（挿図第6、図版第4の2）

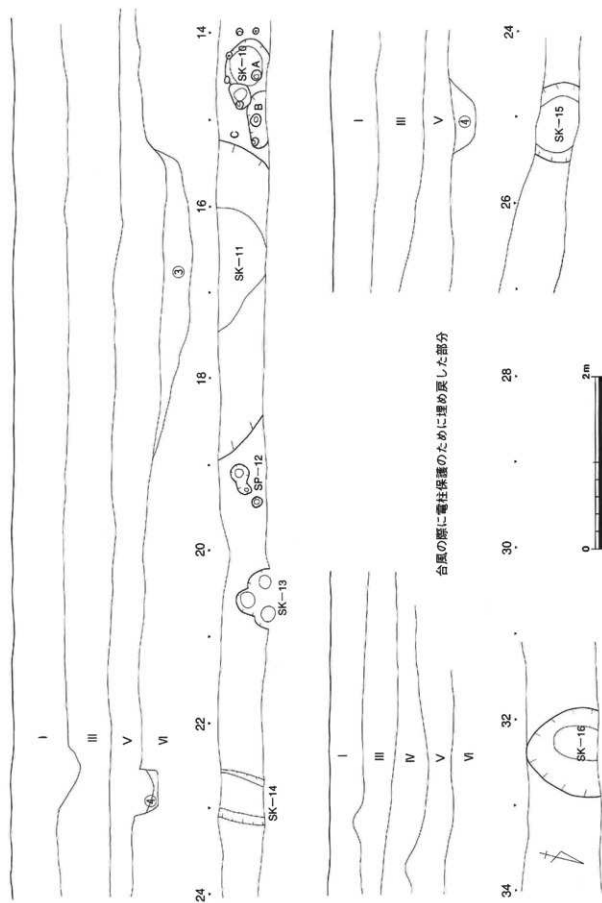
旧東海道に設置した第4グリッドから50mほど北に離れた鹿荻橋北の交差点に位置している。グリッドの規模は2m×2mで、鋼鉄製の支保工が用いられた。

2、調査区の層序と遺構

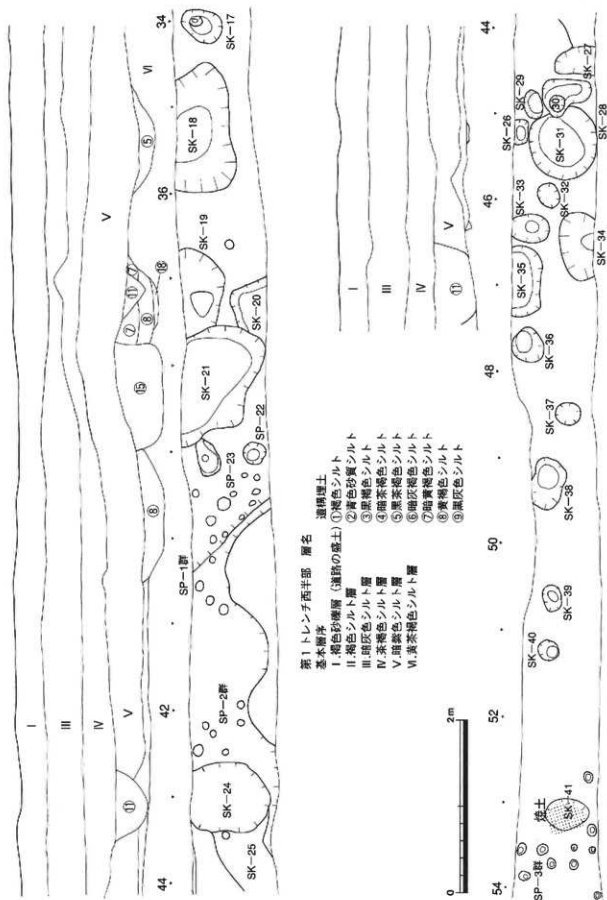
この調査区ではⅠ層褐色シルト質粘土層・Ⅱ層暗紫色粘土層・Ⅲ層暗紫色シルト層・Ⅳ層灰褐色砂層の4層が認められた。遺構は確認できなかったが、Ⅱ層の下半部に縦に打ち込まれた丸木杭が1本検出された。



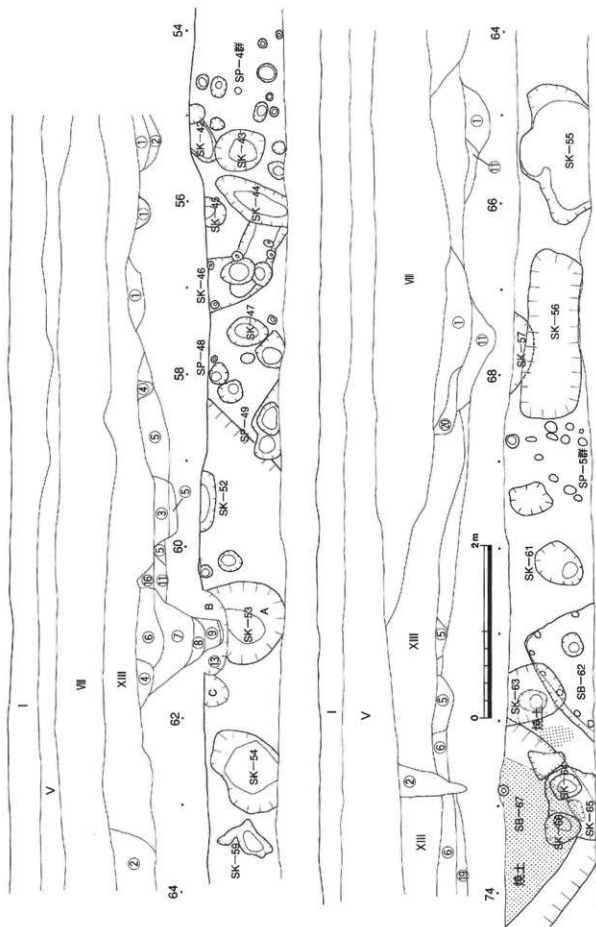
挿図第9 第1トレンチ平面図・断面図 (1)



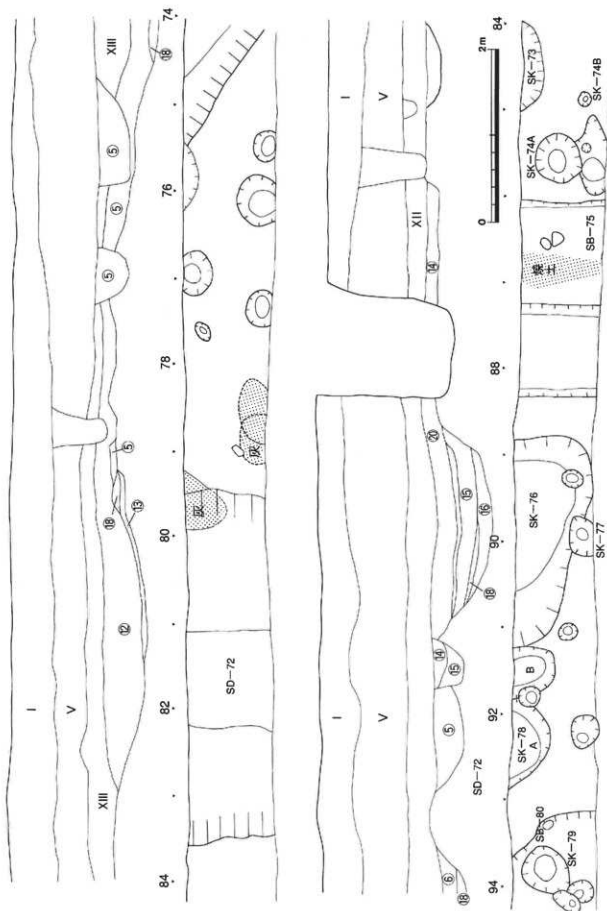
挿図第10 第1トレンチ平面図・断面図 (2)



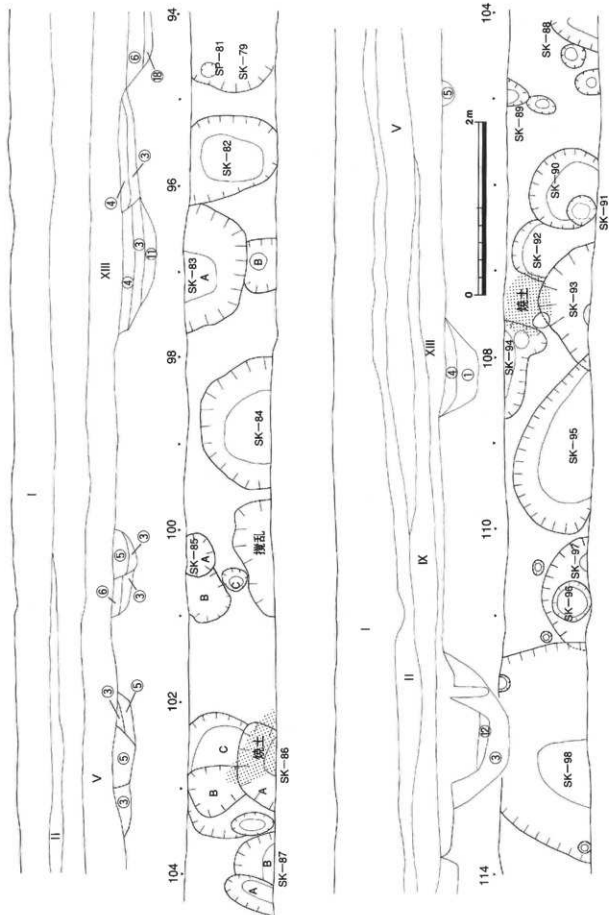
挿図第11 第1トレンチ平面図・断面図 (3)

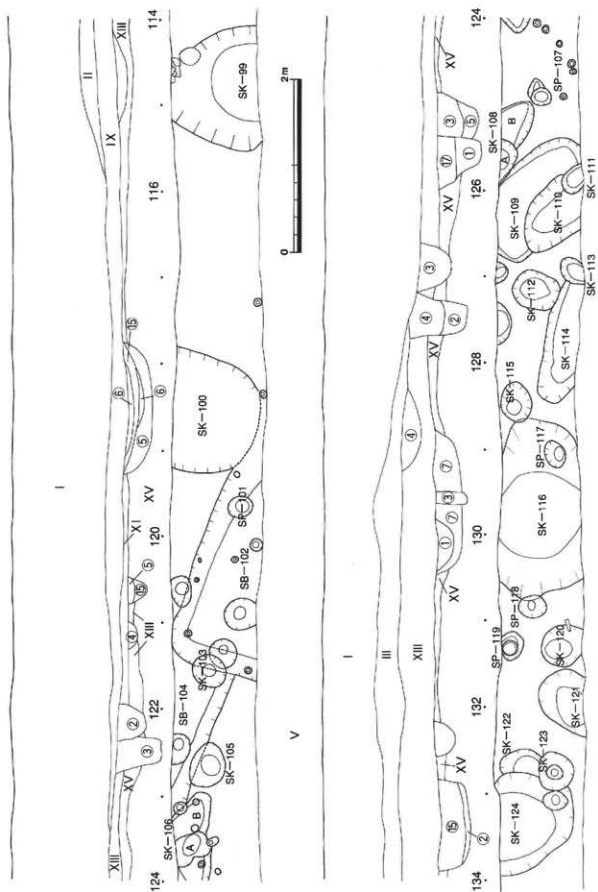


挿図第12 第1トレンチ平面図・断面図(4)

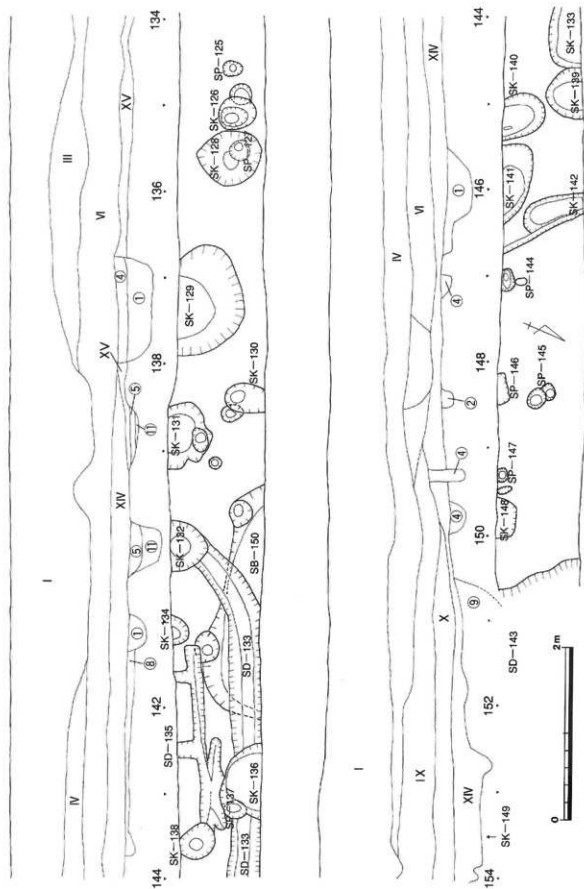


挿図第13 第1トレンチ平面図・断面図 (5)

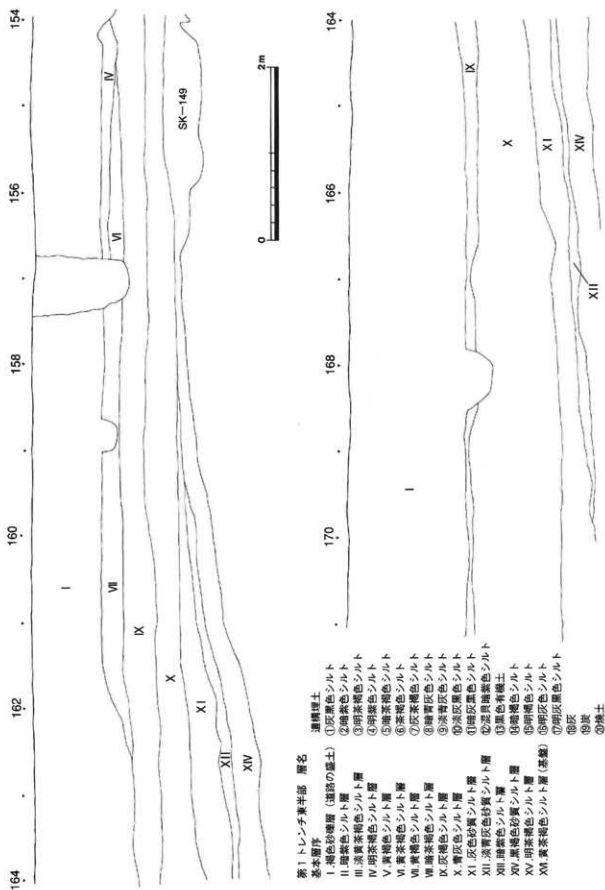




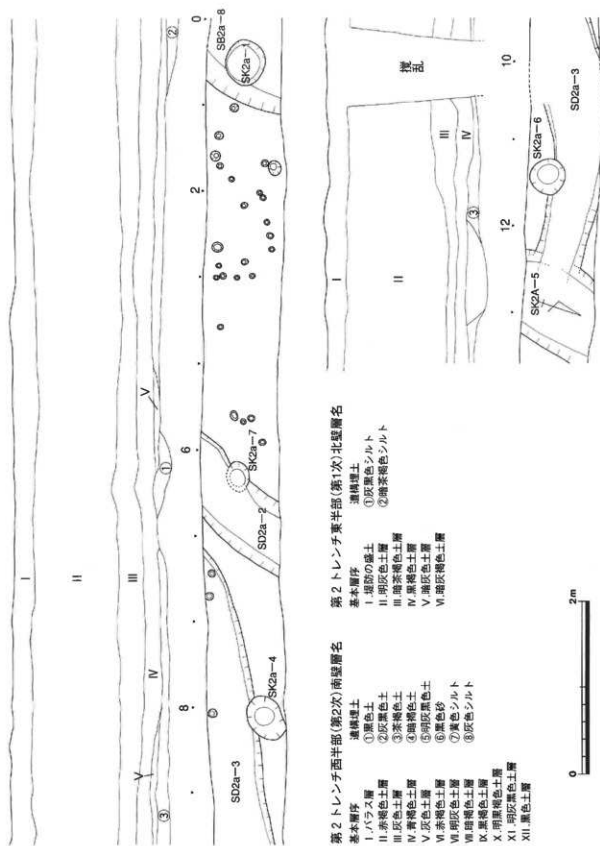
挿図第15 第1トレンチ平面図・断面図(7)



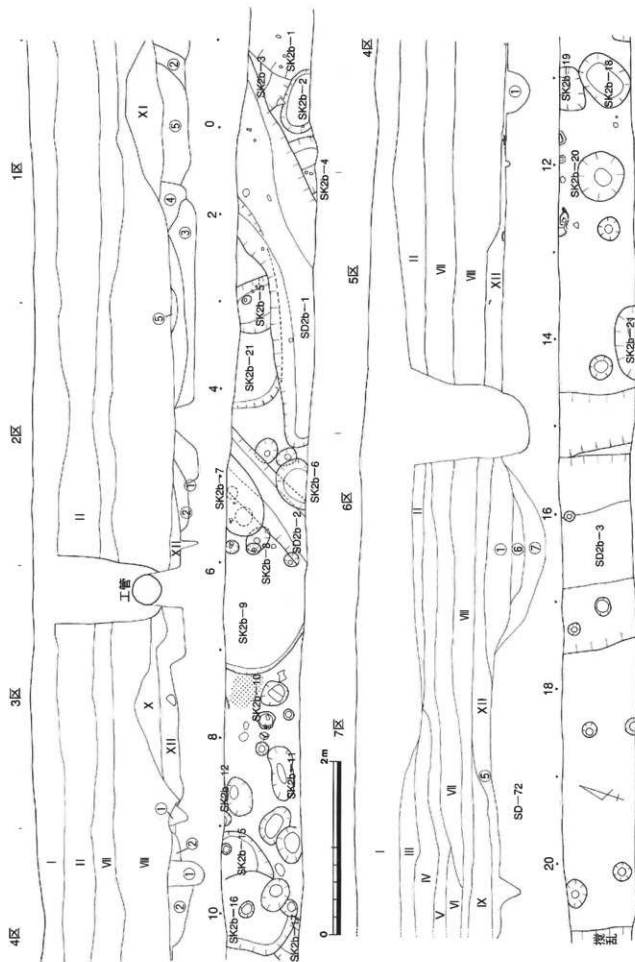
挿図第16 第1トレンチ平面図・断面図(8)



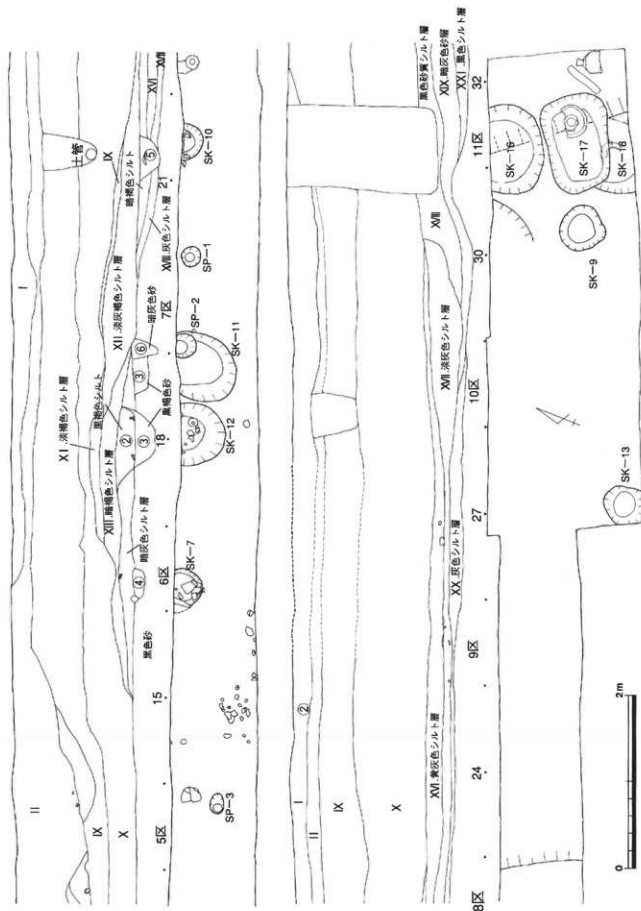
挿図第17 第1トレンチ平面図・断面図 (9)



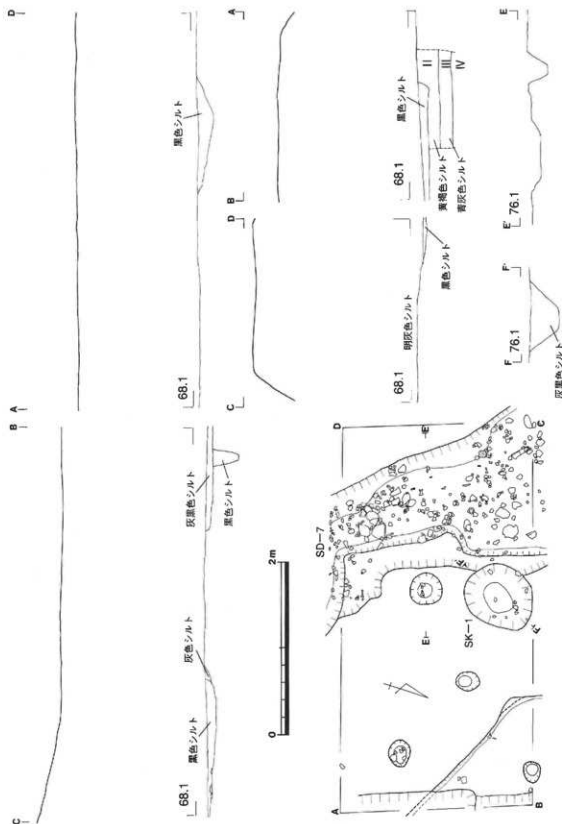
挿図第18 第2トレンチ(1次)平面図・断面図



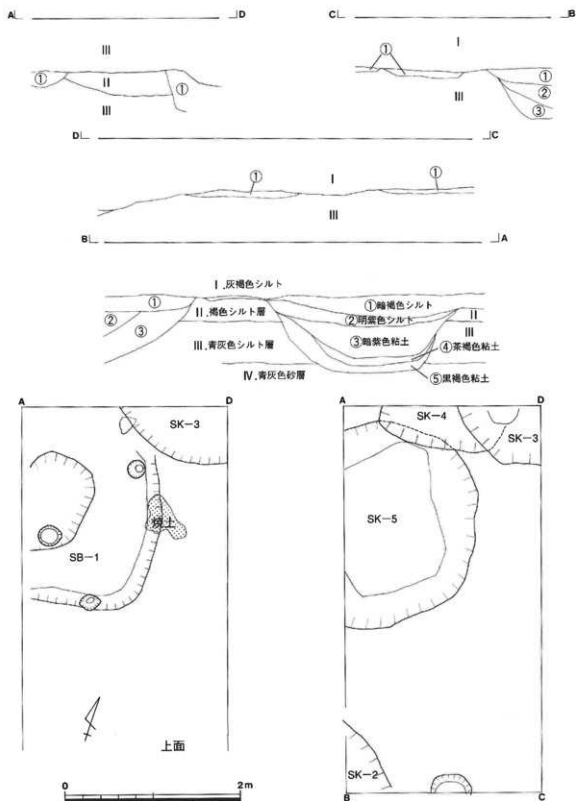
挿図第19 第2トレンチ (2次) 平面図・断面図



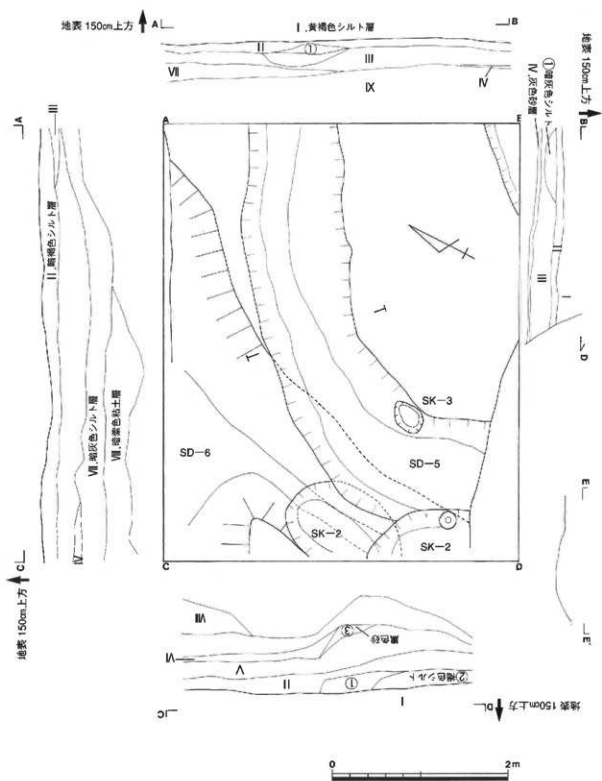
挿図第21 第3トレンチ平面図・断面図(2)



挿図第22 第1グリッド平面図・断面図

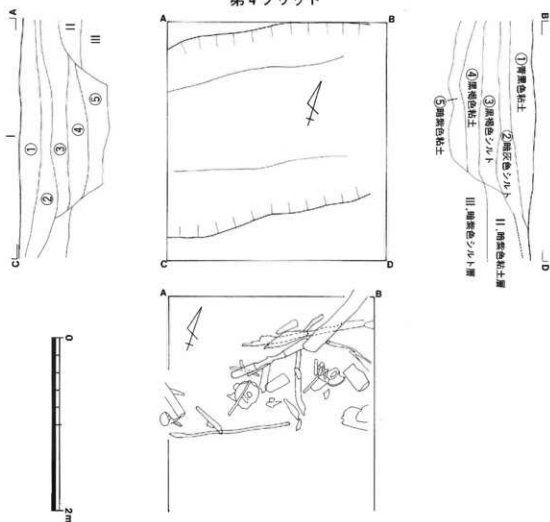


挿図第23 第2グリッド平面図・断面図

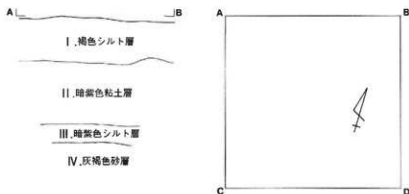


挿図第24 第3グリッド平面図・断面図

第4グリッド



第5グリッド



挿図第25 第4グリッド平面図・断面図・木器の出土状態
第5グリッド平面図・断面図